

令和3年3月

## あ い さ つ — 研究紀要発刊に寄せて —

公益社団法人 川崎市幼稚園協会  
会 長 鈴木 伸司

平素は公益社団法人川崎市幼稚園協会の研修、研究活動にご理解、ご協力を頂き心より感謝申し上げます。特別な一年だった今年度もまた、ご関係の皆様には協会の研究紀要をお届け出来ますことに喜びを感じると共に感謝申し上げます。どうぞページをめくって一年間の川崎の研修記録をご覧ください。

ご承知の通り、この一年は新型コロナウイルス感染症とその予防策等の対応に振り回された年でした。協会としても4、5月の緊急事態宣言を受け、新任教職員研修会をはじめ1学期中の全ての研修会と8月の夏期宿泊研修会の中止を余儀なくされました。6月からは徐々に幼稚園も再開し、また感染者数も減少したことから7月の免許状更新講習から研修を再開することが出来ました。9月以降は継続研修会も会場定員の半数程度に人数を制限し、検温、入退室時の消毒、指定席での受講等々、出来る限りの感染予防策を講じての再開となりました。各分科会の講師の先生方にも色々ご不便をおかけしましたが、何より現場で例年には無い予防策の対応をしていただいた研修部員の皆様に改めて感謝したいと思います。

また、1年間の研修のまとめと位置付けていた研修大会も、2度目の緊急事態宣言発令下という状況での開催となり、午前中の分科会は中止としました。式典、記念講演の全体会は人数制限をし、十分に座席の間隔を確保して開催しました。中止の決断をするにせよ、何とか対応して実施することを決めるにせよ、例年の何倍も時間をかけ検討を重ねました。その中で発案され、初めての試みとして実施したりリモート配信も併用し、全体会として永年勤続表彰や記念講演が無事に実施できたことは大変喜ばしく、ご関係各位のご理解ご協力の賜と改めて心より感謝申し上げます。

各加盟園もこの一年は全ての行事や計画を練り直さねばならず、幼児が集団生活する場としての感染症対策には、日々悩みご苦労されていることでしょう。「人間の一生に無駄な経験など無い」と言われるように、ここで苦労した様々なことは必ずや各園、教職員の皆様の血となり肉となって、将来きっと役立つ経験となるはずです。そう信じて来年度も前進していきたいと存じます。

変則的だった今年度、快く講師をお務めいただいた先生方、研究研修活動をお支えいただいた研修部員の皆様、心配ながらも教職員を送り出していただいた園長先生方に改めて御礼を申し上げ、今後も市内幼児教育の質向上を目指し、より充実した研修、研究活動を続けていくことをお誓いし発刊のご挨拶といたします。

# 紀要発刊によせて

## ～令和2年度 研修部活動を振り返り～

公益財団法人 川崎市幼稚園協会  
研修部長 石渡 宏之

令和2年度 研修紀要の発刊にあたりまして、協会加盟園の園長先生を始め、研修部を支えて頂いた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。更に川崎市子ども未来局の皆様のご理解、ご協力、お力添えに心より感謝申し上げます。

令和元年度末の頃から始まった新型コロナウイルス感染による影響により、令和2年度の研修は〔5月〕〔6月〕〔宿泊研修〕〔研修大会の分科会〕と実施を断念しました。

とはいえ、一部〔免許状更新講習〕だけは、教職員が免許失効を生じない様にと実施する事と対応致しました。

ようやく9月からは研修を開始することができましたが、会場内の密を下げるために〔各会場の収容定員〕の半数程度までを受講対象人数とさせて頂きました。受講希望者は多くありましたが、各園で調整頂き受講定員に収まるようご協力頂きました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。

また、研修大会の基調講演では川崎協会では初めてとなる〔遠隔講習〕を試みました。こちらも各園にご協力頂き、実施することができました事に感謝申し上げます。

今年度の研修事業では、回数は例年より縮小することになってしまいましたが、幼児期における「質の高い教育」が今まで以上に重要視されている事からも、従来からの幼児教育・保育の質をより高める事は、私たち現場教職員にとって大切な事と捉えております。幼稚園協会の研究・研修会では専門分野の講師をお招きし、より専門化した内容で現場の要望・要求に応えられる様、そして幼児教育を深めて頂ける為にと配慮、構成して参ります。

- 特別支援教育研究会
- 子どもと共に育つ保育者研究会
- 幼児教育・10年教諭研究会
- 免許状更新講習研究会
- 新任教諭研修会
- 宿泊研修会
- 川崎市幼児教育研修大会

本年度は例年にない状況にも関わらず、研修の実施にご尽力下さった講師の皆様と、受講者を派遣して下さった園長先生方、そして多忙の中にも関わらず「打ち合わせ」「準備」「運営」と行って頂きました研修部員の皆様に深くお礼申し上げます。

また、令和元年度より「幼稚園ナビ」を活用した受講システムの試験運用を1年かけて参加・検証しました。加盟園の園長先生をはじめとして多くの受講者の皆様にご協力いただいた事で、皆様の研修記録を「研修ハンドブック」だけでなく全日本私立幼稚園連合会でも電子情報として保持出来るようになっております。これによって研修記録が守られます。また、将来的に免許状更新講習の一般化も視野に検討がされています。今後ともよろしく願い申し上げます。

受講される皆様におきましては、講師の先生から多くの事を学ぼうとする意欲ある姿、学んだことを保育で実践しようとしている姿勢を強く感じ、研修を支える者として嬉しく思っています。

最後に、たくさんのご指導を頂いた講師の先生方、研修部員の皆様に心より感謝申し上げますと共に、公益社団法人川崎市幼稚園協会研修部の活動成果をご報告申し上げ、各園の研修にお役立て頂きましたら幸いに存じます。

おそらく次年度も引き続き感染症対策を継続することになるかと考えます。研修会場の見直し、受講者人数の圧縮、健康状況の確認などに留意し、保育現場で活かされる研修を提供していきたいと考えます。また、川崎協会としては初めての〔継続研究会での遠隔講習〕を試みます。継続して協会加盟園の皆様にはご協力頂くことがあるかと思いますが、何卒よろしく願い申し上げます。

# 1. 第 61 回川崎市幼児教育研修大会



# 日程及び内容

※分科会は中止となりました

## 分科会

1月20日(水) 於/各会場

準備/受付	分科会研究発表並びに協議会
9:00	9:20 11:50
第1分科会 『特別支援教育』 ⑦①② 『一人ひとりの子どもの育ちを支援するために』 「これまでの取り組みを振り返る(成果と課題)」	研究責任者:佐保田 ともこ/会場:ユニオンビル
第2分科会 『子どもと共に育つ保育者』 ⑦①② 『子どもと共に育つ保育者になるために』 「保育者として育つとはどういうことか?」	研究責任者:薄井 珠預/会場:川崎市国際交流センター
第3分科会 『3歳児』 ⑦①② 『3歳児の世界をのぞいてみよう』——子どもの見方・捉え方・関わり方—— 「3歳児の1年間の育ちと4歳児に向けて」	研究責任者:上村 瑞枝/会場:川崎市総合福祉センター (エポックなかはら)
第4分科会 『幼児教育・10年教諭』 ⑦①② 『今、保護者に伝えてゆくべき重要なこと—その方法論も含めて』	研究責任者:山口 倫/会場:川崎市高津市民館
第5分科会 『経験者教諭』 ⑦①② 『子ども主体の保育を実現するために大切にしたいこと』	研修責任者:鈴木 淳/会場:川崎市国際交流センター
第6分科会 『新任教諭』 ⑦①② 『保育を楽しみイキイキと働くために』	研修責任者:平岡 義章/会場:川崎市中原市民館

## 全体会

1月20日(水) 於/川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)ホール

受付	開会	式典	休憩	記念講演	講師 野澤 祥子先生 (東京大学大学院教育学研究科附属発達 保育実践政策学センター(Cedep)准教授)	閉会
13:20	13:45		14:45	15:00	「コロナ禍の家庭環境と乳幼児 ～家庭と共に子どもの育ちを支えるには～」	16:30 16:35





# 式典プログラム

司会 小島 哲史

## 開 会 式 典

---

国歌斉唱 一同  
物故者に対する黙祷

---

挨拶 川崎市幼稚園協会会長 鈴木 伸司  
神奈川県私立幼稚園連合会会長 小澤 俊通

---

永年勤続表彰 伊藤 悠貴  
受賞者代表謝辞 受賞者代表

---

祝 辞 川崎市長 福田 紀彦 様  
川崎市副市長 伊藤 弘 様  
川崎市議会議長 山崎 直史 様  
川崎市幼稚園父母の会連合会会長 原 典之 様

---

来賓紹介 多田 政彦  
(祝電披露)

## 記 念 講 演

---

講師 野澤 祥子 先生 (東京大学大学院教育学研究科附属発達  
保育実践政策学センター(Cedep)准教授)

テーマ 「コロナ禍の家庭環境と乳幼児  
～家庭と共に子どもの育ちを支えるには～」

## 閉 会

---

実行委員長 嶋崎 正浩







第61回 川崎市幼児教育研修大会  
 全体会  
 月日 令和3年1月20日(水)  
 場所 川崎市総合福祉センター  
 講師 野澤 祥子先生  
 (東京大学大学院教育学研究科附  
 属発達保育実践政策学センター)  
 テーマ コロナ禍の家庭環境と乳幼児  
 一家庭と共に子どもの育ちを支える  
 には—  
 俯瞰図番号

○発達保育実践政策学センター(Cedep)とは、  
 2015年7月に設立された、乳幼児からの保育・  
 教育を研究する研究機関  
 子育て・保育研究  
 発達基礎研究  
 政策研究  
 人材育成

①コロナ禍の園と子育て  
 同センターでは【保育・幼児教育施設における  
 新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響  
 に関する調査】を実施(報告書はCedep HPで  
 ダウンロード可能)  
 実施期間:2020年4月30日~5月12日  
 回答者数:44都道府県 954名  
 ウェブ上で実施

1回目の緊急事態宣言に伴う、園の登園自粛や  
 休園、外出自粛等は、親の精神的健康の悪化や  
 スクリーンタイムの増加など子育て家庭に影響  
 を及ぼしたと考えられる。  
 園の再開後、スクリーンタイムは元に戻ってい  
 るが、精神的健康状態のよくない保護者も一定  
 の割合で存在する。  
 感染状況が収束しない中での子育て家庭のケア  
 が求められる。

②現代の子育てと園の役割

昭和61年以降の子育て家庭の減少が見て取れ  
 る。[児童のいない世帯]は53.8%から76.7%  
 に増加。と共に[2人以上の児童のいる世帯]  
 は22.3%から9.8%に減少。[3人以上の児童の  
 いる世帯]は7.7%から3.2%に減少。  
 また[地域内で子どもを通じたつきあいの減  
 少]に関する調査(平成14年度~26年度)で  
 は「子育ての悩みを相談できる人が居る(73.8%  
 →43.8%)」「子どもを預けられる人が居る  
 (57.1%→27.8%)」「子どもを叱ってくれる人が  
 居る(46.6%→20.2%)」と子育ての孤立化が進  
 んでいる。

[人間の育て]の特徴と[保育の重要性]  
 ・夫婦の関係…夫婦の絆と父親の子育てへの参  
 加  
 ・祖母と孫の関係…メスが長生きして孫の世話  
 をする  
 ・アロペアレント(仮親)の関係…集団の中で  
 親以外にも育児を引き受ける者がいる

[共同育児]が人間の育ての特徴  
 人間は子ども時代が他の動物と比べて極めて長  
 い。この事は親以外にも[世話する人]を必要  
 とした。世話する人のネットワークができるこ  
 とで、学べるが増え、さらに手厚い世話が  
 できるようになり、更に子ども時代が長くなっ  
 た。

[5歳時点のリテラシーと多様な文脈要因との  
 関連](イギリスの研究)  
 調査項目において「教育効果に影響を与える要  
 素」は

- ・家庭の学び環境
  - ・母親学歴
  - ・通園期間
  - ・SES
  - ・出生体重
  - ・性別
  - ・保育の質
- の順に影響が大きいと考えられている。  
 [保育の質、時間と外在化問題行動との関連](ア  
 メリカの研究)

保育の質、保育時間と子どもの問題行動について [1週間の保育時間] で調査 (週10時間から50時間の間で集計)  
・保育の質に関わらず25時間/週を超えると、問題行動が非常に多くなる

現代は地域の支えの中で子育てをするのが難しい状況である。一方で、人間の子育ては「共同育児」が特徴である。現代の共同育児の一環として、保育は重要な役割を果たしている。ただし、家庭養育や家庭環境も重要であることには注意が必要である。

### ③アタッチメントと保育

恐れや不安などネガティブな情動を経験したときに、誰か特定の人にくっつきたいと強く願う欲求、くっこうとする行動の傾向 (遠藤、2018)

乳児が養育者の身体にくっつき、保護されることによってその制御を行い、情動を沈静化させる機能を持つ (明和、2019)

#### <安心感の輪>

「くっつく」と「離れる」の往還。「いざとなったら、くっつける」という見通しが自発的探索を支える。

[社会情動的発達を支える]

情動の制御・立て直し：子どものネガティブな情動を立て直そうとする

→基本的信頼、自律性レジリエンスなど

情動の調律・映し出し：共感的に寄り添い、子どもの心の状態を理解する

→心の理解、共感性、自己意識、自己概念など

[くっつくこと自体が発達を支える]

生後7ヶ月 身体に触れながら語りかける→脳の活動がより活発  
身体に触れずに語りかける→心地よい接触が得られず自ら触って慰める場合あり

[アタッチメントの個人差]

くっつき方には個人差 (パターン) がある

安定型：安心感の輪が確実にまわり続ける

アンビバレント型：不安な時にくっつくが、なかなか離れられない

回避型：怖くて不安でも泣かない。くっこうとしない

無秩序・無方向型：不自然に固まったり、立ちすくんだりする

[安定したアタッチメントを支える養育者のあり方] とは？

養育者の4つの要因

敏感であること：的確に子どものからだや心の状態を読み取って迅速に対応すること

侵害的でないこと：とくに必要とされていないときには、あえて踏み込まないこと

環境を整えること：子どもが興味や関心をもって取り組むための場所やおもちゃなどを準備し、整えること

情緒的に温かいこと：温かな雰囲気を出しながら、離れたところでもエールを送っていることが伝わる

<子どものよき理解者に>

養育者とのアタッチメントは、子どもの自己と社会性の発達の基盤となる重要なものである。養育者とのアタッチメントには、個人差がある。1歳過ぎには、アタッチメントの表象が形成され、それに基づいて、関わり型のあり方を予測するようになる。

親とのアタッチメント、保育者とのアタッチメントはいずれも重要である

### ④家庭との連携

法的位置付け

教育基本法 (家庭教育) 第十条および2

幼稚園教育要領 前文および第6『幼稚園運営上の留意事項』

3つの行為主体

[子ども] [家庭] [教育者]

それぞれの主体は分かちがたく統一されたもの

で、園が自らの活動を十全に展開しようとする  
と、単に子どもたちがここにいてよかったと思  
うだけではなく、そこで働く職員や親たちがそ  
こで幸福を感じることができるよう工夫を凝  
らす必要があるのです。システムというものは、  
一方の主体が幸福か、不幸かは、他の主体の幸  
不幸と単に関わるだけでは無く、相互に依拠し  
てさえもいるのです。(P35)

[家族とのコミュニケーションにあたって]  
保育要領-幼児教育の手引き- 七 家庭と幼  
稚園 (文部省刊行)

「父母その他の保護者は、子の教育について第  
一義的責任を有する」ことが教育基本法に定め  
られている。

幼稚園教育要領で家庭との連携が重視されてい  
る。

家庭との連携におおて、レッジョ・エミリアの  
親の「参加」の考え方が参考になる。子ども、  
教育者、家族の3つの行為主体は分かちがたく  
結びついている。

子どもという存在から大人たちが学び合うこと  
が重要ではないか

コロナ渦は今までに無い養育環境を生じさせ  
た。

特殊な環境の中で保護者や子どもの状況を調査  
したが、核家族の母親への育児時間の負担が大  
きくなった事が判った。またそれにより精神的  
に健康状態が良好でない回答が56.8%あった。  
「わけもなくイライラしたり、不機嫌だったり  
する」事が増えた子どもも3割以上。いつもよ  
り大人にくっついて離れないなど甘える様子は  
約半数の子どもで増加した。

屋外の活動時間が減少すると主にスクリーンタ  
イムが長くなる傾向があった。5歳以上では2  
時間以上増加。

子どもと保護者のメンタルヘルスにも注意を向  
けながら、「家庭の学び環境」の影響について

の重要性から、問題の早期発見、対策・支援が  
必要と考えられる。



## 2. 継続研究会

○ 特別支援教育研究会 .....	5
○ 子どもと共に育つ保育者研究会 .....	12
○ 3歳児研究会 .....	17
○ 幼児教育・10年教諭研究会 .....	24
○ 免許状更新講習 .....	30



# 特別支援教育研究会

## 研究経過

講師 塚越 和子 先生  
(療育コンサルタント・保育士)

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	9月16日(水)	「特別支援教育の意味と私たちの役割」	D1 - I	20
2	10月21日(水)	「保護者との関係を築くために大切なこと」	E4 - I	19
3	11月18日(水)	「この時期の現状と今後の課題」	E7 - II	19

### ◆研究指定園(19園)

江川幼稚園 若宮幼稚園 ゆりかご幼稚園 大師幼稚園  
サクラノ幼稚園 つぼみ幼稚園 田園調布学園大学みらいこども園 諏訪幼稚園  
若竹幼稚園 津田山幼稚園 梶ヶ谷幼稚園 さぎぬま幼稚園  
潮見台みどり幼稚園 丸山幼稚園 菅幼稚園 東菅幼稚園  
柿の実幼稚園 川崎青葉幼稚園 ちよがおか幼稚園

### ◆オブザーバー

令和2年度はなし

第1回 特別支援教育研究会

日時 令和2年9月16日(水)

場所 エポックなかはら

講師 塚越 和子 先生  
(教育コンサルタント・保育士)

テーマ 特別支援教育の意味と私たちの役割

俯瞰図番号：D1 - I

◎はじめに

- ・コロナ禍での生活で例年と違うことがたくさんある。
- ・家の中で過ごす時間が多く、新学期のスタートも6月だったため子どもがとても幼い。
- ・今までと同じレベルの保育目標や課題設定はむずかしい。この状況をふまえた上で目標を定め取り組んでほしい。

◎特別支援教育の意味

教育のユニバーサルデザインの紹介

○特別支援教育とは

- 平成19年4月よりこの名称になった。
- 障害をもつ幼児・児童・生徒の自立と社会参加を支援するための教育(学校教育法)。
- ・この障害とは発達障がいの意味合いが大きい。
- ・以前から気になる子どもはいたが、これまでの指導の仕方では対象児の行動変容があまり見られなくなってきた。
- ・そこで対象児をもっと深く理解し苦手なことに寄り添い、支え助けて教育していくこととなった。

○発達障がいについて

- ・ひととき大きい個性であり普通との境界線はない。
- ・生活する環境の中で求められる行動ができるかどうかは診断の基準になるが、生きる環境により求められることが異なるため、必ずしも断定できる定義はない。
- ・周囲からの支援や理解が必要である場合、診断名がつく。

・診断名のない幼児もいるため見過ごすことなく必要な支援をしていくことが大切である。

○教育のユニバーサルデザインとは  
より多くの子どもたちにとってわかりやすく、学びやすく配慮された教育(保育)。

◎気になる子どもの捉え方

- ・気になる行動をする子どもに気づいたら  
→子どもを2つの場面で観察・記録する

①うまくできる場面

「○○の支援をすればできる」

②うまくできない場面

「○○の時に、□□ができない」

- ・子どもの困難さをより理解することができ指導目標設定につながる。

○診断名から学ぶこと

- ・診断名はどのような関わり方をすると子どもがわかりやすいかを考えるきっかけを示している。

→保育者は診断名について勉強し支援の手がかりにする。

- ・診断名がつくことは、その子のつまずきが本人の努力不足ではないことをあらわしており、支援が必要である。
- ・診断には時間を要する、また診断がついても一生つきまとうものではなく診断名が変わる人や特性が薄まる人もいる。

◎おたずね FAX より

●事例検討

【友だちとぶつかった時に声をあらげて怒る】

どのような事が考えられるか。

- ・日頃保護者が使っている言葉を真似しているのでは？
- ・わざとだと思い込みが激しいのでは？
- ・保育者への注意獲得行動では？

○言葉への理解力をポイントに見る

状況を説明できるか、また保育者が説明した時に理解し納得して切りかえができるかなど。発達において言葉の理解は基本になるた



め語彙力や説明する力なども含め着目し、必要な子には支援の方法を検討する。

●他、おたずね FAX より解説

- ・診断名をヒントに対象児に合った支援をする。
- ・現象は同じでも原因はさまざまである。

例) 多動

知的に遅れがある子どもは多動のような行動を見せることがあるが記憶や理解が乏しく、その状況がつまらないことに起因している可能性もあり、ADHD の特性としてあらわれる行動とは必ずしも同じとは限らない。

●おたずね FAX より確認

年長児の就学準備について

- ・保護者が子どもの特性を理解しているか。
  - ・総合教育センターの就学前相談を勧める。
- 保育者から見た対象児の集団でのようすを相談時にお伝えいただくよう話しておく。

◎先生より

- ・2学期の目標は大まかな内容で。
- ・1学期は保育者も子どもも今までのような経験の積み重ねがコロナの影響でむずかしかった。
- ・幼稚園での生活がしやすくなる程度の簡単な課題設定を。

◆参考文献◆

- ・発達が気になる子どもたちへのアプローチ  
－発達と行動を踏まえた支援－  
霜田浩信 著 2020 神奈川LD協会セミナー
- ・発達障がいの子どもの心と行動がわかる本  
2015 田中康雄 監修 西東社
- ・通常学級のユニバーサルデザイン  
プラン Zero2014  
阿部利彦 編著 東洋館出版

第2回 特別支援教育研究会

日時 令和2年10月21日(水)

場所 エポックなかはら

講師 塚越 和子 先生

(教育コンサルタント・保育士)

テーマ 「保護者との関係を築くために大切なこと」

俯瞰図番号：E4 - I

◎前回の確認

言語発達の遅れについて

言葉を発しているから問題がないというのではなく一方的に話す子どもは要注意である。言葉は相手とやり取りするツールであり、やり取りをするなかで更なる発達をしていく。たくさん話ができ、むずかしい言い回しなどを知っていたとしても会話のやりとりが成立しない子どもは気を付けて観察していくことがよい

◎保護者との関係を築くために大切なこと

○はじめに

- ・健やかな子どもの育ちのために保護者と保育者の関係構築は必要となる
- ・保護者とのやり取りのなかで見過ごしてはいけないことは虐待の問題である

→改正児童虐待防止法により細かい定義が定められたので園内で勉強会などをするとよい

○関係構築について

関係構築がむずかしい場合考えられる理由は？

- ・第一子であり何を話してよいかわからない
- ・保護者のコミュニケーション力が低く保育者とだけでなくママ友関係も築けていない
- ・家の方針が強くなり、話を聞いてくれない

○対応策として

- ・保護者の特徴に合わせてみる

●用品などの準備についての場合

- ・伝えたい内容を具体的に言い、見本を見せるなどする

→「持ち物には名前を書く」ではなく「○○の

どの部分に名前を書く」など

- ・対応してもらったことに対して保育者から保護者へ何らかのリアクションをする

→話すきっかけづくりとなる

●幼稚園で心配している子どものようすを理解してもらえない場合

- ・家では特に思い当たるふしがなく保育者の言っていることがわからないことがあるため、子どもが居る場所によって行動が違うことを説明し現状を伝える

例) 家の環境

自由に好きなことができる

音、人、物など刺激が少ない

保護者がいるので手伝ってもらうことができ自分で取り組まなくてよいこともある

例) 幼稚園の環境

好きなことはできるが時間が決められている

音、人、モノなど刺激が多い

集団生活の場なので約束やルールがある

大人の数が少ないので、自分で取り組むことが多い

→生活に関すること(着替え、ボタンの取りはずし、トイレトレーニングなど)は家で練習してもらおうようお話する。幼稚園では、幼稚園でしか学べないことに時間を使うべきである

- ・子どもに気づかれぬように幼稚園でのようすを保護者に見てもらおう(言葉で伝えてもむずかしい場合は実際に見てもらおうことがよい)

→子どもがいつどのように困っているのかを知ってもらう

→一度だけだと「たまたま」と思ってしまうので、何度か見学をしていただく

→一般的なその月齢の子どもの姿も伝える

子どもが動きまわるのは当たり前、と思っている保護者には「走りまわって着席がむずかしい」と伝えても何が問題なのかわかりにくい

例) 一般的な5歳児

- ・一定時間座って話を聞くことができる

- ・その場の状況にあった振る舞いをする時期
- ・走りたくても、自分の動きを調整する力が備わっている頃

走りまわる→自分の興味が勝ってしまう

落ち着いて話すと「座っている時間」という認識はできている場合、脳の作業記憶に問題がある可能性がある

→心配しているという現状を正しく伝える

#### ●外国籍の保護者の場合

家庭のなかで複数の言語環境があり子どもは言語発達期なので混乱しているケース

- ・子どもが困っている状況や問題は事実として伝える
- 言葉の壁の問題がある以上、その行動が特性なのか判断はむずかしい
- ・保護者に家での言語環境や言語習得の考え、今後の生活拠点を聞いておく
- 誰と誰がどの言語で会話をしているのか子どもにどの言語を習得してほしいと考えるのか、日本に永住するのか帰国する予定か
- この違いで支援方法が変わる場合がある
- ・文化や宗教の違いは保育者も理解し保護者の要望を把握し配慮する

#### ◎おたずね FAX から学ぶ

ケース1：精神発達遅滞（3・4歳児）

預かり保育の際に他児の水筒から飲んでしまう

【この診断名をもつ子どもの特徴を振り返る】

- ・記憶する力が弱い
- ・記憶がないと日常会話がむずかしい
- ・いま言われたことを覚えられない
- ・日常生活もむずかしい
- ・準備順序を覚え定着させるのに時間がかかる
- 他の子と同じ目標は持てない。目標は他児の半分以下で、求めるものを少なくする
- 教えることを少なくする
- いつもと同じ順序、やり方にする

このケースでは預かり保育の部屋という環境が違うため、この部屋ではここでこうするなど1から保育者が一緒にやって教える必要がある。

また他の子の水筒を飲まない、自分の水筒から飲むという記憶の定着も必要である。

ケース2：自閉症スペクトラム症（3歳後半）

○×カードを実践したが効果が得られなかった

- ・○と×の概念、意味をわかっているか
- ・何が×で、ではどうすればよかったのが理解できているか

場面ごとに決まりや約束をつくったほうが効果的かもしれない。○×は抽象的であり、×だけで子どもにやらせないようにするのはむずかしい。具体的に伝えることが必要である。

#### ◆参考文献◆

- ・子どもの感情コントロールと保育の本 0～6歳  
湯汲英史 著 Gakken2020
- ・苦手が「できる」にかわる！発達が気になる子への生活動作の教え方  
立石加奈子・中島そのみ 鴨下賢一 編著  
中央法規出版 2014
- ・配慮の必要な保護者への支援  
西館有沙・徳田克己 編著 Gakken2014

### 第3回 特別支援教育研究会

日時 令和2年11月18日(水)

場所 エポックなかはら

講師 塚越 和子 先生  
(教育コンサルタント・保育士)

テーマ 「この時期の現状と今後の課題 日常生活における対象児へのサポートのしかた」

俯瞰図番号：E7-Ⅱ

#### ◎はじめに

- ・今年コロナの影響で保育もさまざまな対策や工夫が必要であり経験したことのないことが多く大変だったと思う
- ・子どもは家で過ごす時間が多くいつもと違う生活をしている  
→ゲームなど自宅内で好きなことをして過ごす時間が増えた
- ・家で自由な生活が長かったことから自己主張の強い子どもが多くみられる。また集団生活への切り替えがうまくいかず幼稚園へ行きたくないという子どもも見られる  
→前回の研修でもあった家と幼稚園の環境の違いを保護者に理解してもらうなどの対応も必要

#### ◎コロナ・こどもアンケート中間報告

(保育機関の先生向け)

- ・2020年6月に国立成育医療センターより
- ・アンケート内容  
就寝起床時間／運動時間／こどもたちのこころの様子／保護者のこころの負担／こどもとの関わり／こどもとの関わり方への支援ニーズ／保護者からのSOS  
→調査結果をふまえ保育者はいつも以上に保護者や子どもに対しコロナ禍が与える影響を想像し配慮する必要がある

#### ◎特別な配慮や支援の必要な子どもについて

- ・家庭と園生活の違いや環境の変化により強い

不安と緊張を感じやすい

- ・家庭では主に子ども中心の生活であり園で我慢が出来ない、人に伝えることが元々苦手だが特にへたである  
→集団生活の中で友だちとの折り合いのつけ方など社会性が少しずつでも身につくよう時間を割いて対応が必要

○安心して生活できるクラスづくりを

①1日の流れをわかりやすく示す  
(絵や写真だけでなく説明も添える)

②活動の初めと終わりを伝える

③スケジュールに沿って動き、見通しをもって生活をする

○子どもがイライラやカンシャクを起しそうな時のために場所を用意する

- ・すぐに落ちつかせようとせずに安全な場所へ移動する

→保育室の外に出てしまうと戻る時が大変になるので可能な限り保育室の中で担任の届く場所で

○子ども達が好きな活動リストの作成を

- ・子どもを観察して探る

・保護者に聞く

→好きなものは変わるものなので固定せず適宜リストの入れ替えをする

→好きなものがない子どもはいろいろ体験し好きなものを見つけることから始める

#### ◎おたずね FAX より学ぶ

ケース1：お弁当は食べるが給食には全く手をつけない、または食べるがとても時間がかかる

- ・情報を集め理由について検討する

→家庭ではどうなのか、可能であれば生育歴なども参考にする

・スモールステップで少しずつ挑戦する

#### ●苦手な食材がある場合

- ・目の前に置いてあることを許容してもらう

・口につける

・ごく少量を食べる

→機嫌のよい時やふとしたきっかけで食べられ

る場合がある

- 特定の場所でしか食べない場合
  - ・子どもが決めた場所に座ることを認める
  - ・少しずつ場所の移動や環境の変化を試す
- 手や口が汚れることを嫌がる場合
  - ・嫌な感触を取り去れるようにふきんを用意する
  - ・食事の途中でも手洗いに行くことを認める
- 他、食事について
  - ・スプーンやフォークの持ち方には順序がある
  - ・上手持ち→下手持ち→鉛筆持ち
  - ・発達に併せ習得できるよう配慮する

◆参考文献◆

- ・国立成育医療研究センター  
コロナ×こども本部  
発達保育実践政策学センター2020
- ・0～5歳児 発達が気になる子のコミュニケーション力育て  
山本淳一 監修 松崎敦子 著 Gakken2020
- ・気になる子の偏食  
徳田克己 監修 西村実穂・水野智美 編著  
チャイルド本社2014

ケース2：精神発達遅滞（4歳半）

登園を渋り自宅からトミカを数台持ってくるが、担任に見せるとトミカを母に預け入室する。切り替えができているのでこのままでよいのか？少しずつ止めさせた方がよいのか？保護者と子どもへの対応はどのようにすべきか

- ・本児の目標設定をどこにおくかが判断基準  
→楽しく登園することであれば問題はない。  
楽しく登園していれば興味が広がりトミカへのこだわりが薄れる可能性もある
- ・目標が変わった時に段階を経て取り組む  
→保護者とトミカが本児にとってどのような意味を持つのかなどを話し合い少しずつ方法を試していく(台数を減らしていくなど)

ケース3：○×を使用する時の注意点は？

- ・ダメとこうすればよいをセットで伝える
- 走るのは×、歩くのは○など
- ×だけを示してもどうしたらよいかわからないので対象児は気になる行動を繰り返す

○先生より

保育室の導線や環境づくりを見直す工夫も  
→同じ内容のトラブルが多い場合は環境設定に問題がないかも検討する。子どもの立場に立って想像し、子どもにとってわかりやすい環境設定に取り組んでほしい

# 子どもと共に育つ保育者研究会

## 研究経過

講師 齋藤 正典 先生

(相模女子大学学芸学部教授)

認定こども園 相模女子大学幼稚部園長)

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	9月16日(水)	「保育者に必要な資質・能力とは」	B1 - I	40
2	10月21日(水)	「保育者の人間関係」	B6 - I	29
3	11月18日(水)	「保育の振り返りと子ども理解」	B5 - I	27

### ◆研究指定園(21園)

江川幼稚園 川崎ふたば幼稚園 川崎さくら幼稚園 若宮幼稚園  
梅園幼稚園 小峰幼稚園 鹿島田幼稚園 田園調布学園大学みらいこども園  
川崎めぐみ幼稚園 梶ヶ谷幼稚園 川崎たまたがわ幼稚園 有馬白百合幼稚園  
さぎぬま幼稚園 ひばり幼稚園 潮見台みどり幼稚園 丸山幼稚園  
菅幼稚園 玉川幼稚園 柿の実幼稚園 こうりんじ幼稚園  
ちよがおか幼稚園

第1回 子どもと共に育つ保育者研究会

月 日 令和2年9月16日(水)

場 所 川崎市国際交流センター

講 師 齋藤 正典先生

(相模女子大学学芸学部教授・認定こども園相模女子大学幼稚園園長)

テーマ 「保育者に必要な資質・能力とは」

俯瞰図番号 B1 - I

学校教育に関わるさまざまな取組を、教育課程を中心に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと。

1. 学校教育の効果を検証して改善する(PDCAモデル)。
2. 教師・教科など複数が連携しながら授業をつくる。
3. 地域と連携し、よりよい学校教育をめざす。

○新・学習指導要領に基づく教育が開始

・学んだ事が「生きる力」となって、社会に出てからも生かすことができるよう人生につながってほしい。

- 1) 知識及び技能 2) 思考力・判断力・表現力
- 3) 学びに向かう力・人間性

※3つの力をバランスよく育むことが大切

○3つの資質・能力を幼稚園でどのように育てていくか。

1. 子どもに豊かで多様な経験ができる環境の用意がされている。
2. 自分の経験なども取り入れ、さまざまな活動を展開する。
3. 活動が新たな経験となり、次の活動に取り入れることで、更なる展開になる。
4. 集中したり、協力したり、考え、試行錯誤や表現など、さまざまな資質・能力を同時に使い発揮していく。

○どのように学ぶか

・教師主導で一方向的に教え込んでいく注入型の授業からの脱却

→知識や技能の習得はさせていく点と何ができるようになるのかを重視している点

・能動的な学習＝アクティブラーニングとは、一方向的に教えるのではなく、学習者たちが主体的に課題を解決するような指導・学習方法

※幼稚園教育における5領域における教育(経験や学び)と類似

○カリキュラム・マネジメント

○教師の連携の重要性(同僚性)

※仲良くやっていく集団維持指向と目的達成を目指していく目的達成指向の2つを考える。又、同僚性とはこの2つの指向の両方をめざす人間関係のこと。

○同僚性の高い教員組織の特徴

1. 教員同士が、役割や考え方を相互に理解し納得している(認め合い)。
2. 教員同士が情報の共有や実践を交流し、互いの実践を支援している(支え合い)。
3. 教員同士が、園や園児などの実態と課題を共有し、実践を振り返り解決策を創出している(学び合い)。

○自己理解の重要性

1. 自分を着飾らず等身大にいる
2. 自分らしさを理解している
3. 他者を尊重している

→同僚性をささえるコミュニケーションによって理解していることが大切

○社会に開かれた教育課程

・学校の教育資源を活用し、地域社会の教育資源の活用・協力を得ながら子どもの成長を支えることをめざす。

・学校の公開・情報の開示・説明責任が必要になる→意見などを受け止める→議論し改善する→社会と教育をつくり出していく。

第2回 子どもと共に育つ保育者研究会

月 日 令和2年 10月 21日 (水)

場 所 川崎市国際交流センター

講 師 齋藤 正典先生

(相模女子大学学芸学部教授・認定こども園相模女子大学幼稚部園長)

テーマ 「保育者の人間関係」

俯瞰図番号 B6 - I

○教師の役割 (幼稚園教育要領解説より)

1. 幼児の主体的な活動と教師の役割。

・自発的な活動としてのあそびを生み出すための教育環境を整える。

・信頼関係を築き、教育環境を共に作り出す。

1) 物的・空間的環境を構成する役割。

2) 幼児を援助する役割。

→そのために、みずからの専門性を高め、能力を向上させていくことも教師の役割。

2. 集団生活と教師の役割

1) 個と集団を繋げていくための援助。

2) 集団の中でのルールやきまりに関する援助。  
→ルールやきまりに気づくよう援助。また、その理由を体験を通して考える機会を与える。

3) その他

→時期に応じた学級集団づくりや、異年齢の幼児が交流できる環境づくり。

3. 教師間の協力体制

1) 協力して幼児1人1人の実情を捉えていく

→自分の見方をお互いに出し合い、幼児の実態に近づけていく。

2) 教師同士が連絡を密にしていく

→保育を振り返り、職員全員で幼児を育てていく。

○ATI 現象

教師の指導法や教育観と子どもの能力や適正

には相性がある。

※相性の合わない子どもに対してどうするか。

1) 自分と相性の合わない子どもを見極める。

2) なぜ自分と合わないのか、要因を考える。

3) 自分の教育観を変えてでも、子どもに合わせる。

→子ども1人1人の特性に応じた指導が必要

○教師が協力できる職場

・おしゃべり

最も容易なコミュニケーションで、重要。

・弱音を吐ける

失敗を話すことができ、同僚が受け止められる雰囲気。

・声掛け

意識的に互いに声をかけ合っているか。

・対話

考えや意見が相手と異なっても、それを認め合ったうえで、率直に伝え合っているか。

○教育・保育施設におけるリーダーシップ

・リーダーとはポジション (役割)

・リーダーシップとは周囲にポジティブな影響を与える関わり。

→すべての教師がリーダーシップを発揮できていると、教師間の協力体制が整っていく。また、その教師なりに発揮することが重要。

○保育・教育施設における保育者のリーダーシップ

※厳しく接し、管理統制したり、自分の言うことを聞かせたり、自分が保育者に育ててやるということではない。

○人間関係構築のための留意点

①職場だけの関係と割り切る事も重要。

②話しやすい管理職に、事実と推測を分けて伝え、相談をする。

③陰口や悪口を職場内で言わない。同調しない。

④職場以外の友だちや家族と話す。



⑤同僚に対する感謝や配慮。

○アサーションの3つの技法

1. Iメッセージ

I（私）を主語にしたコミュニケーションを使って自分の感情を伝えることで、相手にとって受け取りやすい言い方になる。

※相手の行動を直接責めない・「自分は～思う」と伝える・否定的ではなく、肯定的な言葉を使う。

2. DESC法

言いたい事を4つに分解して話す方法。客観的に自分の言いたいことを受け入れてもらえるメリットがある。

- ・ Describe（描写） 対応しようとする状況や客観的事実を話す。
- ・ Explanation（説明） 自分の主張をIメッセージで伝える。
- ・ Suggest（提案） 相手にしてもらいたいことを提案する。
- ・ Choose（選択） 提案した結果がNoの場合の代案を示す。

3. オープンクエスチョン

相手に自由な回答をさせる質問の仕方を使うことで、相手の思っていることを聞き出せる。

○事例を基にアサーション技法で保護者対応を考える

※保育者と保護者に理解の不一致は当たり前であり、子どもが楽しく登園できれば保護者は安心する。また、年齢に応じた生活・あそび・発達の姿をクラス便りなどで事前に伝えておくことが大切である。

第3回 子どもと共に育つ保育者研究会

月 日 令和2年11月18日(水)

場 所 川崎市国際交流センター

講 師 齋藤 正典先生

(相模女子大学学芸学部教授・認定こども園相模女子大学幼稚部園長)

テーマ 「保育の振り返りと子ども理解」

俯瞰図番号 B5-I

○保育を振り返るとは

- ・いたらぬ点を謝罪するものではない
- ・いろいろな見方に気づいたり、捉えなかった幼児の行動の意図や意味を改めて考えること

○何のため振り返るのか

1. 保育の質を高めていくため  
→保育者が一方的に保育するのではなく、一緒によりよい状態を目ざして創造的に作りあげるもの
2. 自分自身の保育者としての成長のため

○保育実践の特質

1. 一回性 二度と同じことが起こらない
2. 不確実性 確かさが保証されていない
3. 複雑性 ある場面がどのような要因から成り立っているかについて、さまざまな要因が関わっている。
4. 曖昧性 1つの場面に対して、多様な意味や解釈がありうる。

※常に新規な状況への即興的な対応が必要で、絶対的基準がない。

○保育を振り返ることのむずかしさ

1. 単なる記録のようになってしまう。  
→どのような子どもの育ちがあるか・背景や要因としてどんなことがあるかなどの振り返りがあるとよい。
2. 子どものラブリングで終わっている。

※事例から振り返りの検討

○振り返りのポイント

1. よかったところ・楽しかったところを振り返る。  
子どもの育ちの姿や善さを振り返り、自分の指導・援助を振り返る(ポジティブな側面)



うまくいかない・失敗したところや課題点を振り返る(ネガティブな側面)

2. 活動の中での子どもの経験や学びを捉える。

※事例をもとに捉え方の検討

3. 育ちのプロセスを見通し、現在の育ちを捉える。
4. クラス全体という視点と子ども1人1人という視点で振り返る。

5. 1人での振り返りと皆での振り返り  
情報を保護者や園全体と共有し、複眼的な気づきから保育実践の質の向上につなげる。

○保育の見える化

保育の振り返りの結果としての子どもの姿・学びや経験・育ち・保育者自身の子どもへの関わりを、さまざまな手段を用いて保育者や保護者が情報共有できる物として示すこと。

○少人数での話し合い

- ①コロナ禍の幼児教育を続けてきて、幼稚園(こども園)で保育者として働くことについて、思ったり感じたりすること。
- ②子どもとのエピソードの中で、とても楽しかったことについて

# 3 歳児研究会

## 研究経過

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	9月16日（水）	「3歳児の自己主張を受け止め、仲間関係を作る援助」	E2 - II	44
2	10月21日（水）	「3歳児の仲間意識の深まり」 —環境づくりと保育者の役割—	E4 - II	42
3	11月18日（水）	「3歳児の育ちと3学期の見通し」	B2 - II	34

### ◆研究指定園（33園）

江川幼稚園	鹿島田幼稚園	川崎さくら幼稚園	若宮幼稚園
ゆりかご幼稚園	大師幼稚園	梅園幼稚園	小峰幼稚園
元住吉こぼと幼稚園	田園調布学園大学みらいこども園	すみのえ幼稚園	川崎めぐみ幼稚園
たちばな幼稚園	梶ヶ谷幼稚園	新作やはた幼稚園	川崎たまたがわ幼稚園
諏訪幼稚園	洗足学園大学附属幼稚園	若竹幼稚園	川崎めぐみ幼稚園
健爽学園ゆりかご幼稚園	さぎぬま幼稚園	ひばり幼稚園	潮見台みどり幼稚園
丸山幼稚園	菅幼稚園	桐光学園みどり幼稚園	玉川幼稚園
桐光学園寺尾みどり幼稚園	柿の実幼稚園	川崎青葉幼稚園	ちよがおか幼稚園
こうりんじ幼稚園			

第1回 3歳児研究会

日時 令和2年9月16日(水)

会場 エポック中原

講師 小林 愛子先生

(公財) 幼少年教育研究所 発達と保育研究部会

テーマ「3歳児の自己主張を受け止め、仲間関係をつくる援助」

俯瞰図番号 E2-Ⅱ

1. オリエンテーション
2. コロナ禍における保育の現状について
  - ◎保育の開始時期  
5月の終わりから6月より
  - ◎登園方法  
分散登園(男女別など)
  - ◎子どもたちの姿
    - ・自分で着がえられる子が多くいた
    - ・落ちついて生活していた
  - ◎コロナ対策
    - ・オモチャ等の消毒
    - ・毎日の検温、手指の消毒
    - ・ソーシャルディスタンスの工夫
3. 3歳児の1年間の発達変容
  - ◎1期不安と混乱(4・5月)
    - ・母子分離や環境の変化で戸惑い不安になり、泣いたり保育者に依存したりする
    - ・身近にあるあそびから、自分の好きなあそびを見つけ遊ぶ
  - ◎2期自己発揮(5・6月)
    - ・園生活に慣れ、みずから好きなあそびを見つけ遊ぶ
    - ・感覚や感触のあそびを好む
    - ・自分だけの世界で遊び、まわりは見えにくい
  - ◎3期自己主張(7・8・9月)
    - ・友だちの中で自己アピールが強くなりトラブルやケンカが多くなる
    - ・友だちや先生に認められたい、ほめら

れたいという気持ちが強くなる

- ◎4期仲間意識(10・11・12)
  - ・友だちとイメージの共有ができ、ごっこあそびを楽しむ
  - ・ルールのあるあそびを楽しむ
- ◎5期自己充実(1・2・3月)
  - ・場面の状況判断をし保育者や友だちに言葉を伝えようとする
  - ・集団の中でルールや約束を理解し守りつつ楽しんで過ごす

4. 3期「この時期の子どもたちの姿」VTR

- ◎VTR視聴
  - <ケース1>「けんか」  
男児が数名で積み木あそびを楽しんでいる。1名が特定の男児を入れてあげず、ケンカになる。そのうち入れてもらえない男児は作ったものを足でこわしてしまい、相手に叩かれてしまう。泣きながらケンカになり保育士が仲裁に入り、誰かかしてあげての声かけに借りることができた。
  - <ケース2>「ソファでジャンプ」  
数名でソファから飛び降りてあそぶことを楽しむ。何回か繰り返すうち、2人組や3人組で飛び降りたり、役割分担をし発展させながら遊ぶ。
  - <ケース3>「ケーキを食べよう」  
積み木をケーキに見立てて女児数名で遊んでいる。1名が友だちにケーキを配ったり、そのケーキをお誕生日ケーキに見立て、お誕生会を始めた。
- ◎子どもの言動や心情を考えて題名を付ける
  - 「けんか」
    - ・雨降って地固まる・やり返しちゃう
    - ・暴れん坊ゆうと君
    - ・やっぱり貸してあげようかな
  - 「ソファでジャンプ」
    - ・私が先生よ・先生の真似っこ
    - ・仕方がないから手伝ってあげる

- ・目指せオリンピック・一緒に真似っこ
- ・お手伝いしてあげる

「ケーキを食べよう」

- ・大家族・誕生日パーティ・子ども女子会
- ・いつの間にか誕生会・みんなでパーティ
- ・ケーキタワーで誕生会
- ・みんなで分けたらおいしいね

## 5. まとめ

### ① 3期の発達特性

- ・友だちとの関係が安定してきた
- ・クラスが落ちついてきた
- ・ぶつからないと相手がわからない
- ・ぶつかりの経験は、とても大事。折り合いを付けることで気持ちに気づくことができ、自己コントロールができるようになる

### ② 何故自己主張するのでしょうか

- ・自分のことを認めてほしい

### ③ 自己主張を大切にする保育

- ・フルーツバスケット・ヒーローごっこ
- ・変身ごっこ・真似っこ・お当番活動

### ④ 仲間意識へ

- ・折り合いをつける
- ・人とぶつかった時に学ぶもの（人とうまくやっていくものが見付かる）
- ・ぶつかったら避けるのではなく、ぶつかったらどうすればよいのかを学ぶ
- ・自己主張＝社会性の始まり
- ・トラブルが起きたらチャンス

第2回 3歳児研究会

日時 令和2年10月21日(水)

会場 エポック中原

講師 水越 美果先生

(公財) 幼少年教育研究所 発達と保育研究部会

テーマ 「3歳児の仲間意識の深まり」 - 環境づくりと保育者の役割 -

俯瞰図番号 E4 - II

1. はじめに

コロナ禍の中、いつもとは違う保育を頑張っている。体調管理をしながら頑張っていきましょう。

2. 4期(10月~12月)の子どもたちの姿

◎ケース1「仲良し3人組」

台車に砂場の玩具を入れて遊ぶ。1人の子が友だちが持っている熊手を借りたいが借りられず、自分で別の物を取りに行き遊ぶ。砂を触ったり、熊手を同じ様に使って遊ぶ。そのうち、誕生日の話を始めた。

◎ケース2「自転車こぎ」

3名の男児が固定されていてペダルのみが動く自転車に乗っている。そこへ1人の男児がやってきたが、なかなかかしてもらえない。そのうち、自転車をこいでいた中の1人が「行こう」と言うと、そこにいた皆が行ってしまった。

◎ケース3「富士山づくり」

男女数名で砂場で富士山作りをしている。シャベルで固める人、ジョウロで水をかける人、白砂をかける人など思い思いの役割を見付ける。

◎ケース4「プリキュアごっこ」

女兒数名が、かぶり物などを身につけてプリキュアごっこを楽しんでいる。そこへ男児1名が悪者となって現れ戦いごっこへ発展する。

3. 子どもたちの気持ちをとらえて副題をつける

<ケース1>

真似っこ大好き・僕も同じことをしたい・みんなで一緒に楽しいね・真似っこ上手

<ケース2>

まだこぎたいな・もうちょっとしたらかすね・みんなで一緒にこぎたい

<ケース3>

みんなで相談できるかな・トンネルを作って道路を作ろう・大丈夫は魔法の言葉・大きいお山作りを目指して

<ケース4>

私もプリキュアよ・悪者を退治・私にかなう敵はいない・私が守る

4. まとめ<4期の特性>

①友だちと一緒に

以前は誰でも良かったが、今は友だちと一緒にいると心地良い。

②イメージの共有

考えがつながってきている。知的になってきている。憧れを持っている。

③技術の向上

道具が上手に使えるようになってきている。身体が安定してきている。

④言葉の発達

語彙ややり取りが増えた。

<保育者の役割・環境づくり>

①異文化の吸収

・1人あそびが複数で遊ぶようになった  
・新しい世界へ踏み入れるようになった

②相手の気持ち

本人に自己決定させることにより、相手の気持ちを知ることができる

③イメージの共有

思いと思いが重なり感動があって再現できる

④くっつく、つながる、イメージが広がる

あそび

電車ごっこ・あぶくたった・ぞうさんと  
くもの巣・おにごっこ・宝探しカード・  
なべなべ底ぬけ・お寺のおしょうさん

◎オオカミと七匹の子やぎ（VTR 視聴）

保育者が子どもたちに絵本を2回読み聞かせをする。その後、保育者が「オオカミやりたい人いる？」と問いかけ、子やぎ役とオオカミ役に分かれて劇あそびが始まる。それぞれの役に保育者がつき一緒に行く。絵本を読んでいた保育者は、母やぎも兼ねる。話の途中では、今後のストーリー展開のアイデア（ハサミで切る、石をつめるなど）を子どもたちに聞きながらすすめていく。

第3回 3歳児研究会

日時 令和2年11月18日(水)

会場 エポック中原

講師 小林 愛子先生

(公財) 幼少年教育研究会 発達と保育研究部会

テーマ 「3歳児の育ちと3学期の見通し」

俯瞰図番号 B2-Ⅱ

1. 4期までの振り返り

①不安と混乱

受容されて安心と安定を得る

②自己発揮

まわりが見えてきて自分のやりたい事が見つかった。そのため、物の取り合いを通して相手の気持ちを知る。

③自己主張

人に向けて自己主張をするようになり、トラブルが多発。思い通りにならないことが起こり、心の葛藤を経験する。そして謝ることや(物を)ゆずるために人と折り合いをつけることを学ぶ。

④仲間意識

受け入れ合って楽しさを共感できる。

2. 5期この時期の子どもたちの姿 (VTR)

①手すり滑り

女兒2名で階段の手すりを何回も滑っている。滑りながら、年長児の真似をしていることや見ていて覚えたことなどを保育者に伝える。

②アスレチックごっこ

男女数名でブランコの枠とベンチの背もたれなどを使い、アスレチックごっこを楽しんでいる。自分より前に行く友だちを真似しながら何度も挑戦している。

③ままごと

女兒数名で部屋の隅でままごとあそびをしている。役になりきり、電話をしたり男児にご飯を運ぶなどトラブルなく仲良

くごっこあそびを楽しんでいる。

④思い出の発表

椅子を円にし皆で座る。玩具のマイクを使用し、1人ずつ椅子の上に立ち思い出を発表していく。必要に応じて保育者が、更に質問をするなど話題に深さを出していく。

3. 子どもの言動や心情を考えて題名を付ける

①私もお姉さんの仲間入り、見て見てできるようになったよ、もうできるもん

②真似っこだあ、新しい遊具の使い方、皆でやってみよう、落ちないように、サスケ幼稚園バージョン

③一緒に作ろう美味しいご飯、役者魂、ここはお家

④思い出のバトンパス、発表します、楽しかったこといっぱい、私の思い出聞いて

◎子どもたちの育ちに合わせた保育  
想像できる活動、友だちの前で発表する機会、手順を2つ以上にする活動(かいて切るなど)、劇あそび、1つの物を使う、お店屋さんごっこ。

4. 5期の発達特性

①仲間関係の深まり・信頼感

パーソナリティがわかってきた、その子の良さや悪さがわかってきた。心地よい関係(人の中で楽に自分を出せる)、委ねる、共感。

②身体の操作性の向上

自分の力を調整する力が備わってきた。ケガもしなくなる、知力と体力と忍耐力が備わってきた。

③考える力(理解力・言葉・工夫)

文章で伝えられるようになった。必要以上の説明はいらない。考える力があるから工夫が見られる。

④意欲の高まり

大きい人の刺激をすぐに吸収したが、



チャレンジすることが目的意識につながる、認めてあげる。

5. 5期の特徴を生かした保育のかかわり

①任せるかかわり

必要な時に援助する、適度に手を引く。

②子どもの思いが実現できるための環境づくり。

③個から集団へ

社会化できるように方向づける。

# 幼児教育・10年教諭研究会

## 研究経過

講師 上原文先生

(精神保健福祉士・教育福祉研究室室長)

日本データ社会福祉研究所副所長)

年間テーマ 川崎の幼児教育を考える研究会 2020

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	9月16日(水)	子どもたちの状態についての考察 その他の特徴の理解 幼児教育の現場における工夫	D3 - I	41
2	10月21日(水)	その特徴を抱えた子どもたちへの具体的な対応	D3 - II	40
3	11月18日(水)	家庭支援における具体的な対応	F2 - I	32

### ◆研究指定園(13園)

江川幼稚園 梅園幼稚園 みゆき幼稚園 川崎めぐみ幼稚園  
たちばな幼稚園 梶ヶ谷幼稚園 川崎たまがわ幼稚園 さぎぬま幼稚園  
ひばり幼稚園 宮崎台幼稚園 菅幼稚園 玉川幼稚園  
川崎青葉幼稚園

第1回 幼児教育・10年教諭研究会

月 日 令和2年9月16日

場 所 高津市民館大会議室

講 師 上原文先生

(精神保健福祉士・日本データ社会福祉  
研究所副所長・教育福祉研究室室長)

テーマ ・子どもたちの状態についての考察  
・幼児教育の現場における工夫

俯瞰図番号 D3-I

◎テーマについて

発達障害の裾野にいると思われる子や愛情不足と思われる子など、いわゆる「気になる子」が近年急速に増えている。いままでの教育技術や理論だけでは対応しきれない子どもたちについて、幼児教育保育全体で考えていかななくてはならない。将来大人になっていく、その子たちの未来のために、この研修を通して「理論」を「実践」へと落とし込む過程を学んでほしい。

第1回では、気になる子の内、発達障害の裾野にいると思われる子について解説する。

◎気になる子が増えている背景

顔など外見に特徴が表れず、逆にどこか優れた部分があることが多いため、親や周囲の理解が遅れてしまう。特別な配慮が必要だが、AS、ADHD、LD等には該当しない、このような子については、各幼稚園で対応していくしかない。小学校入学前にできることはたくさんあるので、早くから対応していきたい。

◎何が苦手なのか

このような子たちは、意味を考えたり、推測やイメージなど、総合的に考えることが苦手な場合が多い。具体的には、

- 形のないニュアンスの理解
- 主体性、自主性
- そっち、きちんとなど、「だいたい」の理解

- 相手の気持ちを推察すること
- 過去、未来の出来事を考えることなどが苦手である。

加えて、内部に抱えている問題として、

- 感覚の入力が苦手  
視覚、聴覚等で得た情報を取り入れること。
- 刺激の選択がむずかしい  
騒々しいところで必要な音だけを抜き出せない。保育者と同じレベルで保育者の周囲のものが気になってしまう。
- 脳の中のネットワークがうまくいかない  
目で見ながら手を動かす、といった、2つの部位を同時に動かすことがむずかしい。といった特徴がある。

◎最初から「よい形」を見せる

以上のような特徴を踏まえ、どのような保育を提供していくべきかを考えていく。意味理解が苦手な子は、形で真似をすることが得意であることが多い。そのため、最初から「よい形」を示すことで、真似して動けるようにするとよい。

◎3つの整理で、どの子にもわかりやすい保育を

物理的視覚的整理、時間的整理、聴覚的整理の3つに分けて解説する。

○物理的視覚的整理

- ・ものの置き位置を決める  
置き場が明確になっていると、苦手な子も真似できる。並んで待つ時の位置なども示しておくとうい。

・刺激の整理をする

保育者が話をする時に、注意を引かれるものを周囲に置かない。保育者の背景にもものがないように立ち位置も考える。後ろが窓なら無地のカーテンを閉めておく。

○時間的整理

- ・スケジュールのバランスを考える

一斉保育と自由遊びの配分で、集中と発散がうまくできているか見直してみる。また、いまがどういう時間なのか、子どもたちにわかりやすく提供できているかを考える。

○聴覚的整理

- ・やさしく、短く、結論から話す  
5W1Hの質問はしない。
- ・手を添える  
話すだけでなく身振り手振りも合わせる。
- ・声のボリューム、スピード、トーン、表情  
大きすぎず小さすぎず、はやすぎず遅すぎず、ちょうどよい話し方を心がける。
- ・曖昧な表現を使わない  
あっち、反対、近く、端っこ、きちんと、など。
- ・叱る、おどす、叩く、をしない。  
先回りして叱らないですむようにしておく。

◎幼稚園での実践例

- 個人道具やクラスの道具の置き位置を明確に決めておくことで、苦手な子も真似できるようにしている。
- クラスの中で保育者に注目できるように、背景には何も置かないようにしている。窓にはカーテンをし、エプロンの柄にも配慮するとよい。
- 自由遊びもしつつ、一斉保育で子どもが達成感を得られるように、発散と集中をバランスよくスケジュールに組み込んでいる。
- 声の大きさを棒グラフ状の絵であらわして掲示している。「アリの声」「部屋の声」「外の声」「助けての声」など。
- 弁当の並べ方がわかるように、弁当袋やナフキンの柄に気をつけている。派手なものや、キャラクターのものは、弁当が目立たなくなってしまうので避けている。
- 子どもの姿勢が定まらないので、製作は床ではなく机と椅子で行っている。
- 机の上でのものの置き位置をしっかり決めていく。

- 目と手を協応させる遊びを取り入れている。  
目で見たところにもものや手足を動かす、など。
- 囲まれたところが落ちつくので、クラスの中に刺激の少ない囲まれたエリアを設けている。

第2回 幼児教育・10年教諭研究会

月 日 令和2年10月21日

場 所 川崎市高津市民館 大会議室

講 師 上原文先生

(精神保健福祉士・日本データ社会福祉  
研究所副所長・教育福祉研究室室長)

テーマ ・その特徴を抱えた子どもたちへの具  
体的な対応

俯瞰図番号 D3-Ⅱ

第2回目の内容

①第1回目の補足

- 問題行動への対応
- 脳の発達について

②リアクションペーパーの紹介

③愛着の問題について

④関係のスライドを見る

①第1回目の補足

○問題行動(困った行動)への対応

その行動をどう捉えるか

問題がある行動

↓

なくした方がよい場合

(すぐになくすか、段階的になくすか)

↓

判断に迷う場合

その行動をする時を観察してメモを取って  
みて(どういう時間帯、その前、その後、  
対象のもの、人、その他)大体の原因を知  
る

そのままよい場合

↓

それを身につけたまま大きくなって社会的  
に困らないかを基準として判断する

○脳の発達について

小学3年生までにやる教育は現実的に必要な  
ものが多いが以降の学習はイメージが多い

イメージの勉強はむずかしいので、3年生ま  
でに問題行動をなくしておいた方がよい

②第1回目で受講者が記入したりアクション  
ペーパーの紹介

③愛着の問題について

愛情不足(愛着に問題があると思われる)の  
子どもについて どのあたりに問題があるの  
か

心の発達の吟味がされていない現実

「子どもは社会で育てるべき」論の前に

心の発達で重要なところ

母親は1対1の対応をする

子どもは自分だけ愛してもらいたい

「集団で」の前に心の発達を意識してほしい

↓

そこがうまくいかなかった場合

内側に出てくる

・心身症・指しゃぶり・爪かみ・体の痛み・  
吐き気・おもらし・夜尿・チック・吃音

外側に出る場合

・非行・万引き・薬物

園でできること、しなければいけないこと

1人1人の心の受容→保育者が1人1人を受  
け入れる。その子だけの特別感(どの子にも)

↓

自我の安定

保育者へ→どの子にとっても心の安定が得ら  
れるために、自己肯定感のためにあなたが必  
要です。

④関係のスライドを見る

参考表 エリクソンの人間発達漸成論

第3回 幼児教育・10年教諭研究会

月 日 令和2年11月18日

場 所 国際交流センター ホール

講 師 上原文 先生

(精神保健福祉士・日本データ社会福祉  
研究所副所長・教育福祉研究室室長)

テーマ 家庭支援における具体的な対応

俯瞰図番号 F2-I

本当はほしい行政のシステム

＜すべての子の親に＞

「子育ての基本」を伝えるシステムをつくる

できれば低年齢のうちに(0～6か月)

＜子どもの発達に疑問がある場合のために＞

1歳半健診の充実



こういうことを行政にファシリテートしてゆく  
役割も園が持ってほしい

すべての子どもについて

・前回のレジュメと講義をもう1度見直すこと

・「心の発達」をもう1度確認

1番大切なところ

受容の持つ大きな意味を考える

・教員、保育士として何をすべきか

すべての子の親に…園として

・子育ての基本を伝える 必須(ここで伝えら  
れなければ…たぶん一生…)

・何をどのように伝えるか

・母子関係の重さを伝える

受容することの大切さ

\*伝え方の基本

まず全体的に → それから個別に伝える

繰り返しセオリーを伝えていくこと

\*個別対応の場合、後述する「家族の判断」を  
参考にする

伝え方の具体的方法

\*園だより\*クラスだより\*懇談会

\*勉強会\*面接\*家庭訪問 etc. スライド参考

Ex. 懇談会などで伝える方法

1. <受容について>

それが人生の根本であることを伝える

\*ふれあいの内容(スライド)取り組み例

\*絵本を保護者に対して読んであげる

\*保護者と子どもとのふれあいの写真など  
貼っておく(子どもの表情)

\*連絡帳の工夫:あることを書いてもらう  
方法(あることとは…)ママがやってあ  
げて喜んだことを1つ書く など

母に伝えるふれあいつてどんなこと?

おんぶする、抱っこする、身体に触る、ひざに  
のせる、手をつなぐ、涙をふいてあげる、話を  
聞いてあげる、絵本を読んであげる など

子どもが育ってゆくうえで「人生ってそう悪い  
ものじゃない」と思えるための必要条件は「人  
は頼りになるものだ」(人とつながろう)とい  
う思い(基本的信頼感)と「僕ってけっこうや  
る(できる)やつ」(自己有能感)の2つです(出  
典不明)

2. <生活のリズムについて>

心、精神の安定のために必要であることをぜひ  
伝えてほしい。

懇談会でミニ勉強会を

\*まず保護者用のレジュメを作ってみる

・わかりやすい言葉で

・必ずメモをさせながら

(全部レジュメに書くのではなく要点のみ)

(例)保護者に記入させるためのレジュメ

○幼児期における生活のリズムの大切さ

<心・精神の安定のために必要>

\*気むずかしい状態を減らすため(なるべく快  
の状態を増やすため)

\*よい刺激を吸収しやすい状態にするため

\*昼間の活動に参加できるように

\*何かあったときでも立ち直りがはやくできる

ように

発達に疑問がある子の親に対しては…

- ・まず園内での対応方法を確立してから（遅れているところ、気になるところだけを指摘するのではなく）方法論とともに
- ・それをどのように伝えるか
- ・その子のバックグラウンドへの判断が大切
- ・その親ができるところ、可能なところから提案してゆく

大前提として

園の中でこの2つの子どもたちの特徴を理論的に理解し保育スタイルを見直し、対応方法がある程度確立できているかどうかが大切とくに発達に疑問があると思われる場合

- \*はっきりとした告知も
- \*「大丈夫でしょう」「様子を見ましょう」もどちらも保護者を傷つける

支援プロセス

(すべての子の親に対して必要)

(1) 環境の評価（その前に留意すること）

- ①家庭構成
- ②住居（後述）
- ③父親の職業、収入
- ④母親の生活処理能力  
しっかり判断して理解する
- ⑤夫婦のバランス
- ⑥精神的環境（サポート体制など）
- ⑦性格、防衛機能 など

保護者に伝えてゆく順番

- ①こちら側が組み立てる順番ではなく、できること、可能なことから伝えてゆく
- ②こちらの指導が入らなかった時の判断
  - \*違う考えを持っている
  - \*理解できていない
  - \*面倒くさい

こどもたちはおとなになります

就学前は未来に続く

就学前の重要性…学校期以降のむずかしさ  
どのような支援がされたか…将来が決まる

もっと必要な学び…

- ☆伝えてゆく技術
  - \*プレゼンテーションの技術
  - \*グループワークの技法
  - \*面談の技術
- ☆不適切な養育について
- ☆大人の精神保健について

できれば…

- \*各園に1人でも、家庭支援の役割も持つ先生をおくとよいと思います
- \*その先生は特別な外部の専門職ではなく、幼稚園の先生であり、全体を見渡せ、家庭支援に必要な技術を身につけている人
- \*関係機関との連携もできる人  
<コーディネーターという役割>

著書紹介 西原理恵子

毎日母さん「家事なんかしなきゃよかった」

「子どもたちの未来のために日々努力して下さる先生方に心からのエールを送りたいと思います」上原 文 2020.11.18

# 免許状更新講習

## 研究経過

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	9月16日(水)	「からだ遊びで発達を促す」 講師 石濱 加奈子 先生 (洗足こども短期大学幼児教育保育科教授)	E2 - II	51
2	10月21日(水)	「日本の伝統音楽・文化を子どもたちに伝えよう」 講師 長谷川 真由 先生 (大阪音楽大学 准教授)	B3 - II	51
3	11月18日(水)	「子どもの言葉の発達・コミュニケーションの発達を促す遊びと援助、個別の教育的ニーズの対応」 講師 下尾 直子 先生 (洗足こども短期大学幼児教育保育科准教授)	C2 - I	52

### ◆研究参加園 (26 園)

江川幼稚園	若宮幼稚園	東三輪幼稚園	三輪幼稚園
第一ひかり幼稚園	梅園幼稚園	みゆき幼稚園	第二ひかり幼稚園
東住吉幼稚園	サクラノ幼稚園	宮内幼稚園	大楽幼稚園
田園調布学園大学みらいこども園	若竹幼稚園	たちばな幼稚園	津田山幼稚園
高津幼稚園	健爽学園ゆりかご幼稚園	さぎぬま幼稚園	ひばり幼稚園
潮見台みどり幼稚園	宮崎台幼稚園	柿の実幼稚園	川崎青葉幼稚園
こうりんじ幼稚園	玉幼稚園		



第1回 免許状更新講習  
 日時 令和2年9月16日(水)  
 場所 ユニオンビルセミナールームA  
 講師 石濱 加奈子先生  
 (洗足こども短期大学幼児教育保育科  
 教授)

テーマ 『からだ遊びで発達を促す』  
 俯瞰図番号 E2-Ⅱ

現代の子どもの健康課題  
 睡眠時間 若干改善されてきている  
 朝食の欠食  
 弧、個、小、粉食  
 スクリーンタイムの増加  
 多忙 等

○健康の成り立ち  
 休養・運動・栄養(3つのサイクル)  
 →早寝・早起き・朝ご飯  
 ☆朝食をするほど成績が上がると言われている。  
 ・幼児の睡眠時間  
 →日本:7.5h スイス:10h  
 アジアの子どもは少ない

幼稚園「最近増えている」実感ワースト5  
 (子どものからだと心連絡会議、2015)  
 1位 アレルギー 75%  
 2位 背中ぐにゃ 73.1%  
 3位 すぐ「疲れた」という 71.2%  
 4位 オムツがとれない・自閉傾向

↓  
 前頭葉機能、自律神経機能、睡眠・覚醒機能  
 →神経系の問題

アレルギー:免疫力低下  
 筋力低下  
 意欲の低下

大脳(前頭葉)の発達を見るテスト

→go\_no\_goテスト(反応・反射)  
 どこでつまずくかを確認する  
 興奮型、活発型(本来の発達)、ソワソワ型  
 抑制型  
 →発達のスピードが遅くなってきている。  
 非認知能力の育ちが心配になってきている。  
 ヘックマン:「幼児教育経済学」  
 →早期教育プログラムではない。  
 何が必要か  
 ・社会的関わり、愛着形成、対話の直接的関わり

改善例)  
 小学校  
 ・わくどきタイム→登校後校庭で遊ぶ。  
 →1時間目から集中力高まる  
 幼稚園  
 ・じゃれつきタイム(遊戯室で遊ぶ)  
 →朝の園長先生の話を聞けるようになった  
 ※主体的な朝の身体活動が大切だと言うことが  
 分かってきた。(10分~15分)  
 ・歩くことの大切さ  
 学校や園に着くまでに行きたいが、むずかし  
 く現代は学校教育に求められてきている。

○自律神経の働き  
 体温が日中上がっているかどうか  
 低体温傾向:意欲が上がらない  
 身体が眠ったまま学校にいる  
 改善法)  
 ・体温を上げる活動→散歩、かけっこ等

○光を利用した生活を(体内時計を整える)  
 ・朝は光を取り込んで夜は光を控えめにする  
 ・近年は電子メディアに触れている時間が長く、外遊びの時間が長い。  
 ・メラトニン:眠りを促すホルモン  
 →スマホ、テレビ見すぎると眠れなくなる→起きられない→リズムが崩れる

(必要なこと)

- ・光を浴びる、夜は暗くする
- ・ある程度しっかり食べる
- ・歩く(動く)
- ・遊ぶ

睡眠、食事の問題はメラトニンの調整が大切である。

○子どもが子どもらしく過ごす時間の確保

「子どもの権利条約第31条(1989年)」

「締約国は、子どもが、休息し且つ余暇を持つ権利、その年齢にふさわしい遊びおよびレクリエーション的活動を行う権利、ならびに文化的生活および芸術に自由に参加する権利を認める。」

○休養、遊び、余暇の必要性

大人の休養は寝るだけではないストレスを発散する場所がある。子どもも同じで、遊び込んでいるかどうかが大切になる。園と家庭とそれぞれの場所で出来るようになると、子どもの活動が有意義になってくる。

- ・余暇の時間が確保できていない。
- ・家でも園でも何も要求しない時間

↓

心の落ち着きにつながる。

《子どもの遊び》

○遊びの大切さ

- ・近年遊びの場所がなくなってきているため習いごとをすることが増えている(成果結果を求められる)遊びは自由気ままにできることで心の満足を感じられる。鬼ごっこはお金がかからないが、体操教室はできるようになるため対価と成果が求められる。
- ・遊びの経験が少ない

○近年の小学生の欲しい物

- ・お金、良い成績、自由、時間

○休養の意味

- ・ほっとする時間(休まる瞬間)→子どもたち

には遊び込むことが心の休養につながる。

☆「三間」+の減少:時間、空間、仲間

- ・一緒に遊ぶ仲間の減少。
- ・遊べる場所がない。
- ・未就学児ではまだ確保できない現状がある。

→幼稚園に求められる遊びの責任

○遊びが学びに必要なわけ

経験、環境→活動の選択

群れ遊び、ワクワクドキドキ経験

塾や習い事、やりたいかやりたくないか選択できることと色々な選択ができるようになる。

- ・経験と環境が大切

○コロナ禍だからこその遊び

→小学生の骨折や捻挫が増えた。

太った。(動きの差)

- ・どこまでがよくて、どこまでがだめか、安全をできるだけ確保する。

○大人と子どもの困り事のの違い

- ・運動不足
- ・勉強を教えてもらえない
- ・外出や家での過ごし方

情報→ユーチューブの普及が大きい

○できなかった経験を見つめなおそう  
例)

運動会:リレー、玉入れ、距離を保つ工夫をする。

遠足:園内で遠足ごっこ

※人と一緒の場所で、身体は触れられないが心が群れると活動をする。

バズセッション

- ・コロナ禍のため各園でできなくなったこと、工夫したこと等話し合った。

第2回 免許状更新講習

日時 令和2年10月21日(水)  
 場所 ユニオンビルセミナールームA  
 講師 長谷川 真由先生  
 (大阪音楽大学准教授)

テーマ 『日本の伝統音楽・文化を子どもたちに伝えよう』～子どもの遊びの発見を通して～

俯瞰図番号 E2-II

《目的》

子どもたちの気持ちになってわらべうたや音教材「竹」の体験を通して、わが国の伝統音楽文化の基本的性格をつかみ、明日への保育の一助とする。わらべうたやわが国の伝統的な遊びに着目する。

○新しい「幼稚園教育要領」(平成29年公示)領域「環境」(内容)

(6) 日常生活の中で、わが国や地域社会にさまざまな文化や伝統に親しむ。

(内容の取扱い)

(4) 文化や伝統に親しむ際には、正月や節句などわが国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたやわが国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生え等が養われるようにすること。

・となり同士で今年コロナ禍ではあるが歌を歌っているか歌っていないか等自己紹介を含めて話合う。

《実践》

- ・手拍子まわし(早いところが勝ち)
- ・紙コップを使って(楽器として考える)
- ・さわっていろいろな音を出す

脳科学の視点から

視覚、聴覚、味覚、触覚

音楽に於ける触覚とは→振動ではないか音が揺れ動き、響き合うものが人間には必要である。だから会うことは大切である。(リモートが増えて気づいたこと)

○わらべうたの大切さ

※地域によって伝わる内容や種類がある地域社会や文化の中で育つ子どもの自発的な遊び

- ・毎日の生活の中で遊びながら歌い継がれてきた。(生活そのもののあらわれ)
- ・はやりのうたは一時的なものでわらべうたは長年楽しまれている。

「せっせっせー」に続くものは?

→アルプス一万尺、お寺のおしょうさん、おちゃらか等  
 「どちらにしようかな」

《実践》

二人組で→全員で

「なべなべそこぬけ」

※遊びの経験が少なくなり、子どもの声が低くなってきていると言われている。息が上がって楽しくなってくると音程が上がってくる。

10人ずつくらいのグループで行う。

「はないちもんめ」

「かごめかごめ」

・輪唱遊び

強弱を付け、表現遊びをする

- ・2曲を合わせて歌う。(パートナーソング)
- ・「ひらいた」「なべなべそこぬけ」4曲を合わせて歌う。
- ・わらべうたはどの歌を合わせても合うものである。

・江戸囃子の体験を試してみる。

→わらべ歌を合わせる。

竹素材（10人ずつのグループで）

↓

竹と紙コップを使って江戸囃子を取りながらそれぞれいろいろなわらべうたを歌いそれぞれに発表し感想を出し合う。

- ・どれ1つとっても同じ表現はない。
- ・いろいろ鳴らして音の発見をする。
- ・いろいろな表現→「いいね」と認め合えるとよい。

《まとめ》

映像：お茶の水女子大小学校参照

「3つの唱歌のアンサンブル」

○わらべうた遊びに見る日本伝統音楽の特質

（1）わらべうたとは、小泉文夫（1986.p.9）

- ・わらべうたとは、子どもたちが毎日の生活の中で遊びながら歌い継いできた。
- ・わらべうたを調べると、最も基本的な日本音楽の特徴が音階にしてもリズムにしてもよりはっきりと捉えられる。

※わらべうたは、日本音楽の基本的性格が見られる。

わらべうたは無意識な即興演奏がなされる。遊び、言葉、身体、息が関係統合し一体化してわらべうたが成立する。

わらべうたは子どもたちの育ちの生命力である。

自由になんとでもなるところが、わらべうたのよいところである。

第3回 免許状更新講習

月 日 令和2年11月18日(水)

場 所 ユニオンビルセミナールームA

講 師 下尾 直子先生

(洗足こども短期大学幼児教育保育科  
准教授)

テーマ 子どもの言葉の発達、コミュニケー  
ションの発達を促す遊びと援助、個別  
の教育的ニーズへの対応

俯瞰図番号 C2-I

○ことばを話す条件

- ・ 内言語
- ・ 話したい気持ち (本人の反応)
- ・ 高音機能の発達 (音を作る)

1 内言語

理解 (言葉で説明することができる)

認知 (言葉で考えることができる)

体験と実感 = 言葉の統合

シンボルとしての言葉 (語彙力)

どの段階にいるのか考えて mi

ることが重要である。

例) かさとかっぱの違いはな～に？

説明ができるかどうか・・・

共通点は見つけやすい (黄色い、雨のとき)

動詞や名詞で説明できるか

かさ：さす、たたむ

かっぱ：着る

○内言語を育てる支援

- ・ 意識する (着るとさすの違い)

「かっぱを着てね」

→しっかりと言葉を丁寧に伝える

「かっぱを上手に着られたね」

※体験と実感が大切である。

2 高音機能

- ・ 最近の子は声が小さいと言われる。

○音の作り方

母音と子音がついて音になる。

(弱いと不明瞭になる)

○高音機能の向上のために

“しゃべる”は“食べる”につながる。

(舌をよく動かすことが大切になる)

どんな物があるか話し合う。

食べる例) 雨、小魚、昆布、スイカやとうもろ  
こしにかぶりつく、葡萄、さくらんぼ、種を出  
していらぬ物をより分けることが大切。

なめる、しゃぶる、かむ、舌や唇を使う

(実体験、経験を増やす)

あそび例) 風船、シャボン玉、にらめっこ、口  
を動かす (開けたりしぼめたりする) 等、言い  
直させない方がよい。

3 話したい気持ち

「話す」と「会話する」の違いは？

ICF：障害を捉える (WHOが出している障  
害の分類、人の必要な生活の機能も示す)

内言語

話したい気持ち

高音機能の発達

○「気になる子」

遅れ：主に知的な遅れ・身体的な遅れ

歪み：定型発達のお子さんには見られない

(主に自閉症スペクトラム)

偏り：できることとできないことの差

(ADHDやLD)

○ことばの発達が気になる子

送れ：主に知的な遅れ・身体的な遅れ

歪み：主に自閉症スペクトラム

例) 話し言葉を使わない、エコラリア、奇声

偏り：できることとできないことの差

(ADHDやLD)

例) しゃべりすぎる (一方的)、声の調節、勘  
違い

心の理論：脳の機能の1つ

○話したい気持ちの支援

- ・「話したい」を引き出す（聞く聴く）  
話が膨らむようにする。
  - ・「わかってしまう」聞き取りにくくてもわかってしまうこと。まとめてしまわず、待つ。
  - ・ジェスチャー（マカトン法）
- ※素話：聴く力が伸びる（耳を澄ます）  
頭の中で想像する経験が大切である。

○会話点対話を育てるあそび

内言語 話したい気持ち 高音機関の発達  
《インプロゲーム》

コミュニケーションを育てる

即興劇を楽しむ

例1) パピプペ言葉→それぞれ「楽しい」気持ちを伝え合う。

- ・冬といえば→それぞれ好きなことを言う  
相手の声を聴きそろえていく

その他：運動会といえば、等

例2) スモールボイス

椅子になった気持ちで小さな声で始める

○○になった気持ちで小さな声で始める

○○になってみよう。

言葉をつなげて遊ぶ

お話を一緒に作る

○インクルーシブな保育

DVD 参照

キーワード

「やめて」 相手が入らない時がある。

「やめてっていった？」

「いれて」「やだ」って言われるときもある

「貸して」

※トラブルは言葉が言えないから起こる。

いつかは消えると信じていくことが大切である。

## 3. 研修会

○ 経験者教諭研修会 .....	39
○ 新任教諭研修会 .....	43





# 経験者教諭研修会

## 研究経過

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	9月16日（水）	講師 鈴木 隆 先生 （東京家政大学短期大学部保育科教授） 「健やかな子どもを育てる保育環境を考える」	A3 - I	40
2	10月21日（水）	講師 花輪 充 先生（東京家政大学教授） 「乳幼児の表現の営みを実りあるものに」～『劇遊び』 の取り組みに着目して～」	B3 - II	40
3	11月18日（水）	講師 三ツ山 一志 先生 （子どもの育ちの為のアートラボ代表） 「造形活動は子どものなにを育てるか」-はさみの 活動をとおして考える - 〈新任教諭研修会と合同〉	E2 - II	33

### ◆研究参加園（25園）

大 師 幼 稚 園 福 音 幼 稚 園 梅 園 幼 稚 園 鹿 島 田 幼 稚 園  
 平 間 幼 稚 園 す む の え 幼 稚 園 田 園 調 布 学 園 こ ど も み ら い 園 新 作 や は た 幼 稚 園  
 川 崎 た ま が わ 幼 稚 園 梶 ケ 谷 幼 稚 園 た ち ば な 幼 稚 園 川 崎 め ぐ み 幼 稚 園  
 さ ぎ ぬ ま 幼 稚 園 ひ ば り 幼 稚 園 潮 見 台 み ど り 幼 稚 園 健 爽 学 園 ゆ り か ご 幼 稚 園  
 玉 川 幼 稚 園 丸 山 幼 稚 園 桐 光 学 園 み ど り 幼 稚 園 菅 幼 稚 園  
 川 崎 青 葉 幼 稚 園 女 躰 社 社 こ ど も 園 つ ぼ み 幼 稚 園 宮 前 幼 稚 園  
 川 崎 さ く ら 幼 稚 園

## 研修会

### 第1回 経験者教諭研修会

月 日 令和2年9月16日(水)

場 所 国際交流センター ホール

講 師 鈴木 隆 先生

(東京家政短期大学部 保育科 教授)

テーマ 健やかな子どもを育てる保育環境を整える

俯瞰図番号 A3-I

・MKS：幼児運動能力検査

→詳しく知りたい場合は、上記のキーワードで検索しましょう。

・1986年～1997年に運動能力がどんと下がっている。

・その後は横ばいの状況で変化はほとんどない。

・体力維持継続時間

→頑張ったり・耐えたりする力が足りなくなっている。

※子どもは、1日60分の運動をする必要がある。

・習い事＝言われた通りに動くこと、あそび＝やりたいと思ったことをワクワクしながら行うこと。2つはことなるものである。

・運動指導において外部講師を招くよりも保育者自身が運動指導する方が子どもの状態を理解しているため能力が高い傾向がある。

・多様な動きを経験させることがよい。

### 3. 家庭用ゲーム機の普及

→現代は、半永久的に家庭でゲーム機を楽しめる。

→コンビニの営業により夜型の生活リズムになる。

このように社会が変化した。

### 4. いまの子どもに必要なこと

・84種の動き・36種の動きなど

→例：バランス・移動・操作など・・・

※動きの多様化と洗練化が課題

→子どもが意欲的になる働きかけをしましょう。

→目的ばかり押し付けるとあそびではなくなってしまうことを意識しましょう。

→遊びを成立しながら動きを身につけよう。

→PDCAで時期を決めて日頃の保育を評価しましょう。

→環境設定が必要である。

→保育者の提示からアレンジして遊ぶ子どもの気持ちを大切にす。

### 5. あそびとは、

・面白い

・ワクワクする

・やらずにはいられない ことが子どものあそびである。

例：足跡・発言・かっぱによる子どもの盛り上がり。

・Open-Ended Questions

Closed

→「お話を聞くときは、どんなことに気をつけたらいいかな？」

→発問の仕方を工夫しましょう。

例：2 + 3 = 5ではなく□ + □ = 5の回答の仕方もある。

・遊具の扱い方について

・制限することがよいのか。

→環境や遊具をオープンなものとして捉える。

→安全への配慮は行き過ぎていないか。

→滑り台を下から登ることを禁止するのならば保育者同士で理由を共有してから子どもに伝えるべきである。

探索性・情報性・構築性

→隠れ場をつくる

→図鑑・絵本・写真・ドキュメント

→ポートフォリオを作成しましょう。

第2回 経験者教諭研修会

月 日 令和2年 10月 21日 (水)

場 所 国際交流センター ホール

講 師 花輪 充 先生

(東京家政大学家政学部児童学科 同  
大学院人間生活学総合研究科 教授)

テーマ 乳幼児の表現の営みを実りあるもの  
に！ - 「劇遊び」の取り組みに着目  
して-

俯瞰図番号 B3-II

挨拶・本研修の到達点

- ・いまは、この時代のため保育者もマスク  
をしているので表情が読み取りづらいの  
が現状である。
- ・心の中で思っている内言が人の成長に  
とって大切である。
- ・幼児教育の「見方・考え方」をふまえ  
「遊びの中の表現活動」の捉え方や表略  
について理解できるようになる。
- ・グループ活動が円滑に進行するよう、成  
果が最大化できるよう、子どもを一番に  
考え保育者が中立的な立場で活動をサ  
ポートすること。
- ・パラパラのメソッドから合同化するよう  
に変わってきている。

2. 「遊びの中の表現活動について」

- ・自発性、自主性、創意工夫、協調性といっ  
た遊びの特徴は、表現活動においても同質  
なものとして語られなければならない。
- ・芸術を3つの視点から考える。
- ・「純粹・大衆・限界」の3つの視点があ  
る。
- ・はたして秘術を教えるだけの力を保育者  
は、持っているのだろうか。  
「表現の二面性」
- ・自分の表現意図を明確にイメージしその実  
現に向かって不屈の行動力を持って
- ・探究心→色々な気持ちをコントロールでき  
るようになる。

- ・伝達についての着目点：素直な内面性が自  
然に外へ溢れでるようなレベルが大切
- ・たまたまからの子どもの気づきを拾いあげ  
る。

1. ワークショップ

- ・子どもの体験を発展的なカリキュラム・新  
しいものに触れられるようにする
- ・友だちと比べることより深く学べるよう  
にする。
- ・Active learning、不均衡が生まれる場合  
がある。
- ・教わることに慣れているため、いまは生み  
出す力が求められている。
- ・show and tell→海外では、親がブログに書  
くこともある。
- ・保育者の環境次第で、子どもなりに話を聞  
いてほしいからと自制ができるようになって  
くる。
- ・そのような会話の中で、周辺の質問や思い  
つき、対話の脈絡に保育者がいる。
- ・日本の園では、関係ないものを持ってきて  
はいけない

→家庭での出来事を幼稚園で共有する機会を  
減らしているだろう。

2. 保育者に求められているスキルと多様性

- ・オモテにあらわすことに立ち戻って
- ・好奇心こそ、彼らの表現活動の原動力であ  
り生きる力の源泉である。
- ・大人の価値基準ですぐに押し測るような言  
動は慎むべきである。
- ・なんで・そこでなど会話がひろがるように  
工夫しましょう。
- ・絵をかくときにグループで向かい合う理由  
は、絵が会話のコミュニケーションになる  
ことである。
- ・保育者は、すぐに活動を造形につなげがち  
である。
- ・予期せぬことをするのが子どもでもあること  
をよく理解しましょう。
- ・子どもたちは、広範囲にアンテナを張りめ

## 研修会

ぐらし、大人では、見過ごしそうな情報に耳目を凝らし、そのことの探求や究明に血眼になる。迂回することも必要である。

- ・話を聞く時は、うなずきましょう。相談・対話をよくしましょう。
3. 表現の基本は自発的作業
- ・先生に関心があること。
  - ・保育者の言葉がけや問いかけは、時として子どもたちに思いもよらぬ着想や並々ならぬ意欲を持たせる引き金になることもある。
  - ・保育者の心境を話してもよい。
  - ・保育者の関わりは、微妙なスタンスを要するが、遊び心を持って日常的な会話を楽しみ、子どもとの距離を狭めていく必要がある。
  - ・逆転的な発想を持って日頃の保育に活かしましょう。

# 新任教諭研修会

## 研究経過

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	9月16日(水)	講師 山田 宏史 先生(初山幼稚園副園長) 「運動あそびの時間だよ!」	B3 - I	78
2	10月21日(水)	講師 今井 恵子 先生 (認定こども園 かもいようちえん 理事長 園長) 「保育が魅力的になる言葉の力～質の高い保育を目指して～」	E5 - I	82
3	11月18日(水)	講師 三ツ山 一志 先生 (子どもの育ちのためのアートラボ代表) 「造形活動は子どものなにを育てるのか -はさみの活動をとおして考える-」〈経験者教諭研修会と合同〉	E2 - II	74

### ◆研究参加園 (35園)

江川幼稚園	川崎ふたば幼稚園	若宮幼稚園	福音幼稚園
女躰神社こども園	梅園幼稚園	みゆき幼稚園	元住吉こぼと幼稚園
すみのえ幼稚園	平間幼稚園	宮内幼稚園	たちばな幼稚園
梶ヶ谷幼稚園	川崎たまがわ幼稚園	宮前おひさまこども園	健爽学園ゆりかご幼稚園
さぎぬま幼稚園	ひばり幼稚園	潮見台みどり幼稚園	宮崎台幼稚園
丸山幼稚園	菅幼稚園	東菅幼稚園	宿河原幼稚園
玉川幼稚園	柿の実幼稚園	川崎青葉幼稚園	こうりんじ幼稚園
ちよがおか幼稚園	ルミエール幼稚園	初山幼稚園	小峰幼稚園
川崎めぐみ幼稚園	大楽幼稚園	白山幼稚園	

## 研修会

### 第1回 新任教諭研修会

月 日 令和2年9月16日(水)

場 所 中原市民館ホール

講 師 山田 宏史 先生(初山幼稚園副園長)

テーマ 運動あそびの時間だよ!

俯瞰図番号: B3 - I

#### 1. ぞうさん

- ・ぞうさんの歌に合わせて  
立って足をパー・パー・ゲー
- ・頭の体操(応用編)
  - ①最初の8拍子は手と足同じ動き
  - ②次の8拍子手と足で異なる動き

#### 3拍子のぞうさんは何にでも使える

#### 2. 新聞紙を使って遊ぶ

- ・文字探し  
新聞紙をひらいて床に置き、『あ』がいくつ書いてあるか探す
- ・池に見立ててジャンプ(飛び越える)  
新聞紙を横向きにして飛び越え、また戻ってこられるか?  
⇒縦向きにしたり、2枚つなげたりしてどこまで飛び越えられるか?  
着地時に新聞紙を踏んで滑ったりしないように注意する。
- ・じゃんけんゲーム  
ペアを組み、それぞれ新聞紙の上に立つ  
じゃんけんをして負けた方が新聞紙を一回折りたたむ  
新聞紙が小さくなって、その上に立てなくなったら負け
- ・じゃんけんパンチ  
最近では危険を言われなかなか行えない  
新聞紙を半分に折って、ねじる  
ペアと手をつないで(どちらの手でも)、相手のお尻をたたく
- ・しっぽとり  
上記の新聞をズボンに差して、ペアと手を

つないでお互いにしっぽを取り合う。

- ・太ももに挟んで逃げる側、追う側に分かれ取り合う
- ・リングキャッチ  
上記の新聞紙をさらにリング状にする
  - ①上に投げてキャッチ
  - ②上に投げて、1回拍手をしてキャッチ  
※拍手の回数を少しずつ増やしてみる
  - ③ペアを組んで、1人が投げ、相手が腕に通す  
つま先に通す
  - ④ペアを組んで、一人が2つ同時に投げ、もう一人が両腕にそれぞれ通す

#### 3. レジ袋であそぶ

- ・ペアを組み、レジ袋に空気を入れて、レジ袋が地面につく前に拾う

本日の使用テキスト

- ・元気・勇気・笑顔CD
- ・The運動遊びテキスト&DVD

第2回 新任教諭研修会

令和2年 10月 21日 (水)

会場 中原市民館

講師 今井 恵子 先生

(認定こども園 かもいようちえん  
理事長 園長)

テーマ 「保育が魅力的になる言葉の力～質の  
高い保育を目指して～」

俯瞰図番号：E5 - I

○みずからの実習中

魅力的な保育や保育者に会えた先生  
魅力的な保育や保育者に会えなかった先生  
出会えた人も、会えなかった人も『それは  
なんで?』と考えてみる



キーワード①『なんで?』と思うこと

○『保育が魅力的になる』って『どういうこと?』  
「どういう現象が起こる?」かを探ってみる  
子どもたちが・・・

- ・ 明るいきいきしてくる
- ・ のびのびとして、大人を信じている
- ・ 表現が穏やかで、声に力がある
- ・ 自分に自信を持っている

先生たちは・・・

- ・ 子どもを理解し、信じている
- ↓
- ・ 仲間を信じている
- ↓
- ・ 情報を共有している
- ↓
- ・ 1人1人をさらによく知ろうとしている
- ↓
- ・ 使う言葉を吟味している  
(意図性)

○キーワード②

投げかけ言葉は『疑問形・提案系』  
事例エピソードを通して・・・

- 1) 教育実習生の日誌から
- 2) 日常の中の先生の言葉遣いから
- 3) 保育日誌から
- 4) 海外の事例から  
映像「アシケナージと子ども達」  
(NHK 放送より)

保育は押しなべてあなたの言葉から始まる

あなたの目の前にいる子どもの表す動きに、発  
する言葉に、何をみとる?何を感じる?こだま  
のように戻ってきた音や仕草の中に何をみとる  
どう応える  
こだまは増幅しないけど、保育は増幅していく

あなたの発する言葉から

恵子 2019.10

○保育の中で使う言葉に『力』があることを実  
践して通して見つけよう  
(心が振り動かされるような)  
言葉にワクワク感がある  
ムクムクとやる気が起こる

保育者と子どもは増幅関係

➡キーワード③『ワクワク感』

- 心の動き／感情のうずき  
→アクティブラーニング
  - ・ みずから動きだしたくなる
  - ・ じっくりと考えてみたくなる
  - ・ やってみたいくなる

小学校学習指導要領では今年度より  
アクティブラーニングの考え方を導入

○教師のアクティブラーニングを引き下げる行  
為

- ①保育の説明のし過ぎ

## 研修会

- ・やる気をそぐ
  - ・子どもが思考する時間を奪う
  - ・(試行錯誤)
- ②結論・結果を言う
- ・判断力を奪う
  - ・指示待ち症を生み出す

### ➡キーワード④『余白は大事』

#### ○まとめ

『視座を持てる教師へと成長したい』

視点+視野×ハート=視座

(一瞬にして『一望』することのできる教師の目)

視座を持つとは・・・

言葉の力を豊かに蓄え、その状況や発達全体を見通して、その子どもや活動へとピンポイントフィットの言葉がけができるようになること



保育が魅力的になる

Change the Word

Change the World

言葉によって世界(保育)は変わる

マーガレット・カー



オープン講座

[川崎協会]

日 時 令和2年11月18日(水)

会 場 中原市民館

テーマ 「造形活動は子どものなにを育てるのか ～はさみの活動をとおして考える～」(経験者教諭研修会と合同)

講 師 三ツ山 一志

(子ども育ちのためのアトラボ代表)

俯瞰図 E2-Ⅱ

参加者数 76名

1. 子どもはどのように育っていくのか

表現活動に必要なのは「自分」という意識と、自分ですするという「意志」

絵を描く時間、造形の時間は大人がプログラムしたこと

「やらない」と決めた子にやらせることではない。

自分で「やる」と決められるように思いを引き出すためには、を考慮することが大切。

年少：

今まですぐそばに手をつなげる親の存在があった。そこから1人。当然落ちつかない。

まずは園生活に慣れる。

先生が筆といくつか絵の具の色を用意して、「どれを使う?」「誰がするの?」

色をつけてみる。絵を描くことの原点であり、「自分で決める」という大切な経験。

「描く」という正しい形を教えることはできない。

上手に描くことではなく、自分で決めることが何よりも大切なことである。

「できる」ために大切なのは「相談できる」ということ

できないこと、困ることが多くて当たり前。そ

のために保育者がいるということを知る。

「できないけどやってみたいなあ」のためには、助けてくれる保育者の存在があることを知っていること。

「できる」ことが自由度の幅を広げる。

「できる」「したことがある」を増やしていく。

日本では「これをしましょう」がまだ主流。幼児期はまだよくても、小学校に行くと一生懸命行なっても出来栄で評価される。

「頑張ろう」は励ましているだけ。具体的援助を。

実践

1. 画用紙の短辺を指2本分くらいの長さに切る。それを2本用意する。

2. 2本をホチキスで留める

3. 耳の上を通して頭に巻き押さえる

4. 接点をホチキスで留める(帽子の元ができる)

5. 残った画用紙を見せ子どもに問いかける。

「丸ってどんな形?」「角がない」

6. 角を少しずつ切ると「なんとなく丸い形」になる。

7. 1. と同じくらいの幅で何となく蚊取り線香のような形に切る。

8. 7. でできたものを4でできたものの外側に感覚的に留めていく。

9. 個性豊かな帽子の完成

途中までは全て同じ工程。しかし、完成品は全て違うものになる。

経験のない子に好きなものを作りましょう、は苦痛。

経験のない部分はみんなで体験。経験のある部分に自由性を持たせる。

上手=手本に近いことができた時のほめ言葉

それぞれの作品に対して使う言葉ではない。

ハサミ

繰り返しの中で身につく力

一回切り(チョッキン)

## 研修会

一回で切れる幅の紙を用意し、何度も取り組める環境を用意。(年少)

↓

連続切り (チョキチョキ)

ハサミのルール

ハサミは「小さな前ならえ」

ハサミが自分の目の前にある状態が大切

テープカッターのルール

片方の手で引っ張って、もう片方の手でねじる

大きな絵を描くためには

手首も肘もつけない

クレヨンのルール

クレヨンの頭だけを紙にあてて描く

筆の使い方のルール

指でつまんで立てる (握るのではない)

子どもは自分が使いやすい方法で始める

それを初めから否定するのではない。

楽しみを見出した時に正しいルールを伝えた方が子どもは受け入れやすい。

### 実践2

「紙を横に切る」とは・・・

紙を縦長に置き、下から上に折ること。

使うもの：画用紙 (4ツ切り)、ステープラー、ハサミ

#### ○平面的な動物

1. 紙を横に折る。
2. 折れ線を切る。
3. 半分になった紙を再び横に折って切る。
4. その紙をさらに横に折って切る。
5. その紙の角を切って丸くする。
6. 「動物には何がある?」「足」
7. 4. のもう半分で足を4本切り、5. にステープラーで留める。

8. 同じ要領で「尻尾」「首」「頭」をつける。

9. 平面的な動物の完成

#### ○立体的な動物1

1. 筒をつくる
2. 筒の両側に足を付ける
3. 「尻尾」「首」「頭」をつける。

※首は先端部を少し折ることで頭を前に向かせる。

4. 立体的な動物の完成

#### ○立体的な動物2

- ①紙を横に折る
- ②足の部分をつくる・・・開く側の左右からそれぞれ1/4の場所から半分まで切る
- ③胴の部分をつくる・・・長く残った部分を筒状にし、ステープラーで留める。
- ④足の強化・・・②の先端部を半分に折る。
- ⑤「尻尾」「首」「頭」は立体的な動物1と同じ。

床の活動→「動いていい」活動

机と椅子の活動→「動かない」活動(集中できる)

4歳でハサミ、セロテープ、ステープラーを使いこなせるようになるとよい。

### 2. まとめ

子どもはどこに向かって育っていくのか → 大人になる自分の未来

大人になるために必要な力

- ・自分で決められる力
- ・時間をかけられる力
- ・調べたり確かめたり教えてもらう力
- ・挨拶したり感謝したり関係できる力

↓

造形活動は、子どもが大人になるために必要な内的な能力を育成する

## 令和2年度 川崎市幼稚園協会研修部員と担当役割

担当副会長	嶋 崎 正 浩 (津 田 山 幼 稚 園)	
研 修 部 長	石 渡 宏 之 (江 川 幼 稚 園)	
研修部次長	上 村 瑞 枝 (ゆりかご幼稚園)	
研修部次長	佐保田 ともこ (東 菅 幼 稚 園)	
研修部次長	志 村 富 子 (サクラノ幼稚園)	
分科会	担当責任者	研修部員
特別支援教育研究会	佐保田 ともこ (東 菅 幼 稚 園)	多 田 政 彦 (大 師 幼 稚 園) 山 田 賢 一 (若 竹 幼 稚 園) 琴 賀 岡 宏 美 (宮 内 幼 稚 園)
子どもと共に育つ 保育者研究会	薄 井 珠 預 (梅 園 幼 稚 園)	小 川 哲 也 (川 崎 ふ た ば 幼 稚 園) 後 藤 達 朗 (有 馬 白 百 合 幼 稚 園)
3 歳 児 研 究 会	上 村 瑞 枝 (ゆりかご幼稚園)	佐 藤 奈 保 子 (健 爽 学 園 ゆ り か ご 幼 稚 園) 仁 藤 一 成 (川 崎 こ ま ど り 幼 稚 園) 持 田 啓 太 (有 馬 白 百 合 幼 稚 園)
幼 児 教 育 ・ 10 年 教 諭 研 究 会	山 口 倫 (さぎぬま幼稚園)	岡 本 量 寿 (こ う り ん じ 幼 稚 園) 鈴 木 正 宏 (た ち ば な 幼 稚 園) 鈴 木 智 士 (み ゆ き 幼 稚 園)
免 許 状 更 新 講 習	伊 藤 悠 貴 (丸 山 幼 稚 園)	志 村 富 子 (サクラノ幼稚園) 里 薫 子 (洗 足 学 園 大 学 附 属 幼 稚 園)
経 験 者 教 諭 研 修 会	鈴 木 淳 (川 崎 め ぐ み 幼 稚 園)	野 口 友 子 (平 間 幼 稚 園) 平 山 諒 典 (菅 幼 稚 園) 永 田 莉 奈 (丸 山 幼 稚 園)
新 任 教 諭 研 修 会	平 岡 義 章 (川 崎 た ま が わ 幼 稚 園)	佐 藤 教 寛 (大 楽 幼 稚 園) 金 井 岳 (小 鳩 幼 稚 園) 和 田 武 士 (太 陽 第 二 幼 稚 園)

### ◎令和2年度神奈川県私立幼稚園連合会 研修事業部・研究部員 (川崎地区)

研修事業部員	石 渡 宏 之 (江 川 幼 稚 園)
	志 村 雄 治 (白 山 幼 稚 園)
	山 口 倫 (さぎぬま幼稚園)
	山 田 賢 一 (若 竹 幼 稚 園)
研究部員	上 村 瑞 枝 (ゆりかご幼稚園)
	佐保田 ともこ (東 菅 幼 稚 園)
	志 村 富 子 (サクラノ幼稚園)
	多 田 政 彦 (大 師 幼 稚 園)

